

人殺之類

寶曆五年七月十八日

松平右近將監殿御差圖

土屋越前守掛

櫻田備前町半兵衛店
組合人宿安兵衛寄子

五兵衛

右之者儀太左衛門町七郎兵衛方買掛り帳面附違之儀ニ付可承糺と部屋頭五左衛門任申旨此もの初傍輩陸尺共當三月廿八日追々七郎兵衛方へ罷越右帳面付違之儀承糺候共對談之致方も可有之處傍輩六兵衛儀手代太兵衛を理不盡ニ土間へ蹴落し候節差留も不致却て此もの十露盤にて手代市郎兵衛頭へ疵付外より參居候小左衛門支人ニ入候處小左衛門をも敵小左衛門儀表へ逃出候を六兵衛追駆生死難計程打擲いたし候をも乍見受其分ニいたし置六兵衛ニ心儘ニ打擲爲致右痛にて小左衛門儀ハ相果候此もの儀七郎兵衛方へ參相手之者共を打擲可致と申合右及始末候儀ニハ無之旨申之候得共市郎兵衛へ疵付其上小左衛門を六兵衛敵候節此ものも十露盤を以敵候上ハ六兵衛ニ手傳ひいたし候ニ相違無之不届ニ

付重追放

怪我ニ而人を殺し又ハ疵付候類

寶曆四年七月二日

西尾隱岐守殿御差圖

依田和泉守掛

神田多町壹丁目
市兵衛店平助方ニ居候
同人弟

伊助

右之者儀新銀町久兵衛店四郎兵衛倅八十八と申二歳ニ成候小兒を抱雛店へ罷越候節相店平六女房頼候ニ任セすと申三歳ニ成候娘を預り召連候て神田鍛冶町を通り候處抱候小兒泣出候間懐へ入可申と手を引罷在候すてを放し候處すて儀藁芥を附通り候馬ニ行當り怪我致し右怪我にて間もなく相果候段畢竟此者龜末之致方より事起り不届至極ニ付重追放ニ可申付候得共全怪我之儀にて無是非事之旨すて父母共何分ニも宥免之儀相願候ニ付輕追放

町人之部 奉行手限

提事并御觸申渡等を背候部

法式背候類

天明六年三月

山村信濃守掛

小石川尹町
半兵衛店

惣兵衛

右之者儀淺草日輪寺門前伊八店庄兵衛江燒鐵物等賣渡候節印形燒失ニ付跡ニ而押可申旨及對談判取帳江名前計認置賣渡候段兼而古鐵屋仲間定法存乍罷在不埒ニ付急度叱置

御觸申渡背候類

安永七戌年七月

牧野大隅守掛

新吉原江戸町壹町目
家持遊女屋

彌八

外四人

右之者共儀町内遊女屋之内菊桐模様之衣類并禿ニ橋櫻模様之衣類爲着其外華美之夜具等所持致し候由之風聞有之ニ付呼出相尋候處銘々抱遊女共之内しら玉外五人之者馴染之客江無心申拵貫候由ニ而錦其外華美之夜具所持致し罷在菊桐橋櫻模様之衣類等着候もの決而無之由申候得共新吉原町之者共并遊女之衣類者絁紬木綿紺屋染可相用旨先年より申渡も有之上者遊女共右躰花美之夜具拵貫候共此者とも相改御法度之品ニ付可差留處其分ニ致し置候段不埒之至ニ付過料拾貫文ツ、

裁許申渡を拒候類

寛政十二申年三月廿三日落着
根岸肥前守掛

靈岸島町
惣兵衛店

右之もの儀願出ルは江戸橋廣小路ニ而年々九月より翌三月迄七ヶ月之間密柑仲買之もの共舊來商致し來候ニ付間口四十間奥行五間之地所拜借致し小屋取建并取拂候間年々失費相掛一統難儀之由ヲ以此度右之場所定拜借地致し度品々申立相願候間相糺候處去々午年村上肥後守勤役中其方儀本湊町久志本屋敷吉十郎店ニ罷在候節前書之趣願出糺之上難相成儀ニ付願之趣不及沙汰段申渡訴狀差返候處猶又此度同様之願申出候段奉行所を不恐仕方不埒ニ付三十日手鎖

人宿之類

文化二丑年四月十八日入牢
同年八月十六日落着

根岸肥前守掛

本所林町三丁目
儀兵衛

庄 五 郎

右之者儀素人ニて奉公人請ニ立候儀親類之外は難相成假令親類ニ而も拾人より多く受ニ

立候儀ハ致ス間敷旨兼而御觸之趣をも乍辨居知人又は身元も不存もの共都合拾四人下請人も不取置請ニ立右之内ニは先達而欠落ものも有之處乍存武家方町方拾壹ヶ所江奉公ニ差出尤受狀之節人主名前は取拵有合判を押用奉公人壹人より判賃金壹分貳百文ツ、請取遣捨右奉公人之内ニは取逃欠落致し候もの有之候得共金子調達致し兼候迎日延いたし置給金取逃之品とも不相濟罷在候始末不届ニ付敲之上江戸拂

不實不仁之取計致し候類

天明四辰年七月

山村信濃守掛

赤坂表傳馬町貳町目
惣八店

半 七

右之者儀播州宍粟郡船越山南光坊弟子本山修檢室壽院願之儀氷川大乘院ニ而糺相濟歸村申渡候後難相煩出立難成引續宿致遣候上者快氣迄留置〔爲〕致養生可遣處痛所嗅氣強難義ニ候迎召仕和助庄次郎江申付歩行も難成ものを駕籠ニ乗セ氷川門前江捨置セ候始末不仁成致方不届ニ付所拂

隱賣女之類

享和三亥年十一月廿五日入牢
同年十二月九日落着

根岸肥前守掛

大富町

平兵衛店

伊兵衛

勘次郎

甚右衛門

右之もの共儀料理茶屋渡世いたし候迄ニ而隱賣女同様之渡世致し候儀無之段雖申と客有之候節ハ娘又ハ召仕女或ハ知人之娘抔頼酒之酌給仕等ニ差出し深夜迄も酒之相手等爲致既ニ勘次郎方ニ居候ひさ儀ハ客之内相對ニ而密通致し候ものも有之畢竟右躰不取締之儀も有之候故隱賣女同様之渡世いたし候趣之風聞等受候始末ニも相成一同不埒ニ付過料拾貫文宛

不行跡之類

享和三亥年七月廿五日落着

根岸肥前守掛

神田紺屋町一丁目

家主喜兵衛方ニ居候

同人伴

徳藏

右之者儀當七月十八日金子入用有之候間衣類致質入來候様父喜兵衛申付候ニ付右品質入イタシ代金壹兩壹分貳朱借受候處不斗出來心ニテ新吉原町へ燈籠見物ニ罷越深夜ニ相成候迎不立歸遊女買揚止宿イタシ右質代金之内貳朱遣捨候段不埒ニ付急度叱り

花會致し候類

安永五申九月

曲淵甲斐守掛

木挽町三丁目

幸八店

勝五郎事

次郎兵衛

右之もの儀母病氣ニ付物入多有之候迎稻荷講と名附札百枚餘拵知人之方江配り金子取集
吳候様木挽町貳丁目又左衛門店熊次郎同所三丁目又兵衛店傳次郎を頼右札を配り先々得
心之儀と者乍申都合金七兩貳分餘集候内木挽町三丁目稻荷江金壹分奉納致し其外料理代
相拂殘金四兩壹分餘徳用致し候始末押而金子ねたり取候同前之致し方不屈ニ付敵之上所
拂

奇怪異説之類

安永七戌年五月

牧野大隅守掛

駒込片町家主

平七

右之者儀去西九月八日召仕富之助賣掛取集ニ遣し暫過罷歸不揃躰ニ付狐ニ被誑候儀と存
山伏を相頼祈念爲致候處富之助無症ニ相成此者地面ニ平九郎と唱來候稻荷之社有之七年
以前燒失致し小キ祠を建置候處右社を建吳候様度々申此者悴榮次郎骨痛致し候處社を建
候ハ、快氣可致旨富之助任望ニ社を建候得共榮次郎早速快氣致し富之助も快相成候を承

傳稻荷參詣之もの有之追々群集可致と存五人組名主江申聞訴出吟味之上取拵右躰之風説
爲致候儀曾而無之由申立ニ付他之もの參詣堅相斷尤異説等無之様可致旨町役人連印之請
證文差出候後富之助又候無症ニ相成人之病難を救候呪を傳授致し候由申且此者江者先年
平九郎ニ傳候由南天散と申藥之藥法有之旨申候を近所之もの居合承右藥追々調ニ參候迎
富之助任申聞候得共不相糺調合致し代錢壹貫二百文ニ賣遣候旨申候得とも請證文差出候
上者呪又者藥調ニ參り候とも可及斷處無其儀受證文を不相用右躰之及始末候段不埒之至
ニ付江戸拾里四方追放

異形之體致し候類

享和二戌年正月廿四日預ケ
同年二月五日落着

根岸肥前守掛

北本所表町

家主

五郎兵衛

外拾貳人

右之者共儀角頭布丸頭巾之外面體を隠し候頭布冠申間敷旨前々御觸有之近來異風之頭布冠步行候趣相聞候間去西十二月中猶又嚴敷御觸有之候處相背風呂敷頭布と唱面體を隠し候頭布冠候段不埒ニ付一同右頭布取上五郎兵衛儀八家主之身分ニ而別而不埒ニ付過料錢五貫文其外一同三貫文

雛并芥子細工拵方之類

享和三亥年三月廿五日落着

根岸肥前守掛

尾張町壹丁目

甚兵衛店

卯兵衛

右之者儀雛寸法八寸以上并裝束道具類之儀ニ付前々嚴敷觸置趣も有之處相背卯兵衛久兵衛彌兵衛平兵衛ハ八寸より壹貳寸宛餘寸之内裏雛伊兵衛常右衛門ハ唐子人形臺付ニ而目立候作り物見世二階ニ差置商ひ致候段彌兵衛ハ家主之身分別而不埒ニ付右品取上過料錢拾貫文卯兵衛外四人ハ右品取上過料錢五貫文宛

尾張町壹丁目新地
家主

甚兵衛

外五人

右之者共儀雛商賣之儀ニ付前々より嚴敷觸置趣も有之處甚兵衛善藏店貸置候卯兵衛平兵衛ハ宅ニ而久兵衛外三人ハ右商ひ中文藏總助新右衛門藤右衛門店を借受致商ひ處銘々停止之雛人形商賣致し候を見改も不致差置候段甚兵衛藤右衛門ハ月行事之身分別而不埒ニ付過料錢三貫文宛申付之文藏外四人ハ急度叱り

右町々
五人組

清助

外五人

右之者共儀雛商賣之儀ニ付前々より嚴敷觸置趣も有之處組合店內ニ罷在候卯兵衛外五人之もの共停止之雛人形商賣致し候をも不存罷在候段不埒ニ付一同叱り

廻町五丁目
名主

與兵衛

月行事

彌兵衛

池之端仲町

名主

七兵衛

月行事

勘兵衛

本石町三丁目

名主

傳左衛門

月行事

十五郎

本町三丁目

名主

文左衛門

尾張町壹丁目新地
名主伊左衛門幼年ニ付
後見

徳兵衛

右之者共儀雜商賣之儀ニ付前々より嚴敷觸置趣精々申付置尤商賣中ハ時々見廻リ候旨申候得共甚兵衛外五人之者共停止之雜人形賣買致し候をも不存罷在候段名主月行事之身分ニ而改方等閑故不埒ニ付一同過料錢三貫文宛

麴町拾壹丁目
家主

茂兵衛

外三人

右之者共儀店子又者組合之内久兵衛外三人儀雜商賣之儀ニ付前々觸置趣相背右商中麴町本石町本町ニ而店或ハ見世を借請停止之雜人形商ひ致し候をも不存罷在候段不埒ニ付一同急度叱り

本石町三丁目
新右衛門店

安兵衛

外壹人

右之者共儀伊兵衛常右衛門江見世貸遣し雜商ひ爲致候處右之もの共停止之品商賣致し候をも不存罷在候段不埒ニ付兩人とも急度叱り

鈴木町
茂右衛門店

鐵次郎

右之者儀雜商賣之儀ニ付前々より嚴敷觸置趣も有之處梨子地ニ紛敷品見世ニ差置候段不埒ニ付叱り

尾張町壹丁目新地
新右衛門店

藤兵衛

右之者儀見世ニ差置候雜道具之内簾金屏風ハ細川越中守奥より修復ニ請取置候段吟味之上無相違候得とも最初尋之節手代共心得違ニ而商ひ物之様申立候段畢竟申付方等閑故不埒ニ付叱り

門訴之類

寛政十二申年十一月五日入牢
同年同月十九日手領預ケ
同年十二月九日落着

根岸肥前守掛

淺草三島門前
宇兵衛店

彦右衛門

右之者儀淺草組箔屋共世話役吉右衛門宇兵衛并中橋組行事茂兵衛儀聊之事ニても彼是事六ヶ敷申渡世向障ニも相成候ニ付世話役行事不動様爲致度存居候處此度箔屋一件吟味有之ニ付幸ニ存三人之もの共取計不宜趣次兵衛江相咄同人より外江相願訴狀認賞尤唯所業とも不分様無名ニ而封上ハ奥よりと認南番所腰掛江張訴致ス段不届ニ付江戸拂

高利金之類

享和三亥年七月五日手領
同年八月六日落着

根岸肥前守掛

神田松下町三丁目
北側代地主
利兵衛

右之もの儀高利金貸借致間敷旨度々被仰渡も有之候處去戌十一月中神田佐柄木町伊兵衛
江金五兩用立貸附方之儀ハ格別利潤も可有之と存付右五兩ニ付利錢三百文ニ相極貸付候
翌日より日々錢拾貫文ツ、日數四日ニ四拾貫文取立四日目ニ利錢三百文引取時之相場を
以差引勘定いたし餘錢之分ハ差戻候旨雖申と其後も同様之仕形ニ而引續一ヶ月之内ニ都
合五度貸附其度々三百文ツ、利錢引取候ニ付日數廿日ニ金五兩之利足壹貫五百文ニ相成
殊ニ伊兵衛行衛不知候連證人善兵衛を相手取濟方之儀願出候始末不届ニ付家財取上江
戸拂

紛敷渡世之類

文化元子年六月廿七日落着

根岸肥前守掛

西平十二日五日
西平十四日十日
西平十二日十日
西平十一日五日

淺草諏訪町
清七店

太吉

右之者儀元耀吳服渡世いたし候處不如意ニ相成難取續兼而金田左右吾より傳法を請候三
光五形相應石を相弘渡世ニ致度左右吾申聞候處右ハ陰陽家より職札免許無之候而ハ不相
成候間追而免許受候迄ハ左右吾出張之積ニ而相弘可然旨任申聞町役人江も不申聞右石類
商候趣ニ届置右五形相應石望之もの江ハ賣渡遺尤右ハ異法新法之儀ニハ無之由申候得共
商物同様紛敷いたし成候段旁不埒ニ付過料錢三貫文

請負不埒之類

文化元子年九月三日落着

根岸肥前守掛

麻布市兵衛町
與兵衛店
新 兵 衛
木芝四町目
家持
嘉 兵 衛
右之者共之内新兵衛儀芝車町當御役所附地所請負落札ニ付嘉兵衛證人ニ而當四月請負申

付明地明店有之候共上納金引下之儀ハ勿論請負御免願候儀ハ難相成旨之請證文差出候上
ハ普請入用金等ハ兼々手當いたし置聊差支無之様可取斗處無其儀此節店修復入用金才覺
出來兼候迎受負無間も御免之儀度々相願候段不埒之至ニ付受負取放之上兩人共過料拾貫
文宛

店受人并請ニ立候類

享和元酉年十一月二日落着

根岸肥前守掛

神田堅大江町
文左衛門

徳兵衛

右之モノ久藏林藏請ニ立町方奉公ニ差出置候處林藏儀久藏ヨリ被頼蒲團壹ツ預り置蚊屋
壹張ハ致質入遣〔候〕處右品ハ紛失物ニテ怪敷趣六右衛門ヨリ申聞候ハ、久藏林藏共早速召
連可訴出處取計方等閑故取逃ス始末ニモ相成不埒ニ付過料錢三貫文

質屋之類

寛政十二申年十二月十一日落着

根岸肥前守掛

淺草東仲町
藤右衛門店
質屋

次郎兵衛

右之者儀武具之類質取方之儀ニ付近年格別ニ觸置候處手代市兵衛儀右體不埒之質取方致
候段兼テ申付方等閑故之儀不埒ニ付右質代金元利金取上過料錢三拾貫文

捨子之部

享和二戌年九月十三日落着

根岸肥前守掛

青山御掃除町
權太郎店

八右衛門

右之モノ儀青山久保町新兵衛店吉右衛門方ニ掛り居候砌去酉九月中久七儀捨子貰受候間

請人ニ相成吳候様相頼候間吉右衛門へ相咄候處承知いたし家主へハ同人より可申聞旨申
ニ付受ニ立東海寺へ證文差出候節家主ハ病氣ニ付印形ハ借受參候由ニテ吉右衛門相渡候
ヲ實事ト存既ニ右始末家主一向不存殊ニ家主名前ヲ心得違ニテ新兵衛ヲ辨藏ト認違ヒ證
文差出候儀トモ不埒ニ付過料錢三貫文

博奕之部

博奕打候者之類

文化元子年二月十九日入牢
同年七月十八日落着

根岸肥前守掛

神田紺屋町壹町目
佐兵衛店
平七弟子

善 吉

右之者儀博奕之儀ハ近來格別嚴敷御觸も有之御法度之儀乍辨手合ニ加リ候儀ハ無之候共
平七方にて大勢寄合兩度迄博奕相催候を乍存其分ニいたし居候段不埒ニ付急度叱

博奕又ハ賭事ニ用候品賣買致し候類

安永四年未年四月

牧野大隅守掛

南新堀二丁目
由右衛門店

十 兵 衛

右之者儀今般めぐりと申博奕ニ相用候かるた商賣いたし候者共吟味一件ニ付呼出相尋候
處十四五年以前壹ケ年程之内かるた商賣致し候得共賣方間遠勘定相ニ引合不申候間其後
ハかるた商賣不致由申之右ハ御法度之博奕ニ相用人之惡事ニ相成候品を賣捌方宜勘定ニ
引合候得ハかるた商賣いたし候心得ニ罷在候段不埒之至ニ付急度叱

店內博奕不存罷在候類

享和三亥年十一月十三日落着

根岸肥前守掛

北島町家主

市 右 衛 門

右之者儀博突之儀ハ近來別て嚴敷御觸も有之店子共へも精々申付平日共心付候旨雖申當
十月十四日夜店子清五郎方へ大勢寄合簀博突いたし候をも不存罷在候段等閑故之儀不埒
ニ付急度叱

密通之部

女を誘引出し候類

安永四年十二月

牧野大隅守掛

淺草寺地中

壽徳院地借

佐七店

清 藏

右之者儀身上不如意ニ候進小普請組石河土佐守支配森新三郎家來園部文之進娘ふみへ執
心有之由申聞誘引出ふみ家出不致以前より衣類等受取質入致し其後追々衣類其外之品請

取質物ニ置都合金叁分錢壹貫八百文借受右之内壹貫六百文ハ馬喰町四丁目忠次郎店藤次
郎方雜用代ニ相渡錢金二分所持致し罷在其餘ハ遺捨候儀共不届ニ付蔽候上江戸拂

夫有之女へ密通申掛又ハ不法申聞候類

寛政元四年四月

山村信濃守掛

深川熊井町

太兵衛店

半 右 衛 門

右之者儀同町市兵衛妻とめへ當正月下旬以來酒狂之紛度々不義申掛不致得心致密會候儀
ハ無之同二月廿一日市兵衛留守之節罷越不義申掛候處不致得心候ニ付有合候出双庖丁を
以威候ニ付とめ幼年之娘を連逃出し候間宿へ相歸翌日市兵衛方へ参りとめを妻ニ可貴受
旨難澁を申立噪候儀共酒狂とハ乍申右始末不届ニ付中追放

御仕置宥恕之部

自訴之類

天明六年十一月

曲淵甲斐守掛

元大工町

儀右衛門店

德左衛門作

市五郎

外四人

右之者共儀元大工町新道彦右衛門店新八方居候金太郎通三丁目平兵衛店長三郎悻新次郎
檜物町與市店忠兵衛方居候己之助一同料理茶屋彌五兵衛方へ罷越無代にて酒給其上彌五
兵衛へ知人ニ可相成段申候得共夫ニも不及旨申候迎一同申合彌五兵衛方居宅内造作并建
具家財諸道具等迄不殘打こわし候段不届ニ候得共銘々自訴致候間以有免五人共敲之上所
拂

牢屋類焼之節放遣立歸候類

天明六年六月

山村信濃守掛

深川六間堀町

忠右衛門店

佐太郎

外壹人

右之者共儀身持放埒にて寅右衛門久左衛門伊勢松次郎吉申合同町新兵衛藤兵衛店之者御
法度相背隠賣女屋致渡世候に付賣女可買揚旨申掛及斷候迎彼是事六ヶ敷申募家財雜具等
打壞あばれ所を爲騒候段不届ニ付敲之上所拂可申付候得共當正月廿二日牢屋類焼之節放
遣候處申渡相守立歸候ニ付敲

主從親族等ニ拘り候者之部

親族之爲ニ不筋之取計致し候類

安永二巳年九月

牧野大隅守掛

靈岸島長崎町一丁目

右之者儀悴字兵衛先達て不届有之重敲江戸十里四方追放ニ相成在方へ罷越候處去辰二月此者方へ參御當地ニて船乗稼致し度旨申ニ付店請人ニ相立深川佐賀町太兵衛店借受差置候當五月中店仕舞此者方へ被引渡候ニ付在方へ參候様申聞差出候以後之儀ハ不存候處當六月樂立地にて往來之者を捕あばれ候儀是又曾て不存旨申候得共右體追放ニ相成候者ニ付留置可訴出處無其儀店受人ニ相立御構場所内店借受差置候段不届之至ニ付江戸拂

不實之取計致し候類

安永九子年四月

牧野大隅守掛

岡崎町忠兵衛店

彦兵衛

右之者儀甥文次加役方へ被捕吟味中致病死候ニ付死骸引取候哉之旨本八町堀壹丁目清兵衛店二番組人宿次三郎へ尋有之候由申聞候ハ、如何様にも片付可遣處無其儀貧窮ニて迷

文 惑致し候間死骸取捨願吳候様次三郎へ相頼候段人情ニ有之間敷儀不埒之至ニ付過料三貫

使先不念之類

享和元酉年十二月四日落着

根岸肥前守掛

小船町壹丁目

太兵衛店

小四郎召仕

仁三郎

右之者儀當十一月六日夕七時頃主人使にて源兵衛利右衛門方へ爲替金百二拾三兩持參致し源兵衛方へ五拾兩相渡利右衛門方へ罷越候ハ、茅場町往還へ可相掛候處近道ニ候迎川端を通り候故既右懷中之金子七拾三兩何者共ニ候哉理不盡ニ被奪取候始末ニ相成候段不行届儀不念ニ付叱り

欠落者之類

文化二丑年四月十九日入半
同年五月二日落着

根岸肥前守掛

神田久右衛門町二丁目
藏地五郎左衛門店
新組人宿
長兵衛寄子
万吉事

萬藏

右之者儀清助下請にて沖右衛門寄子ニ成去子三月中より武家方中間奉公ニ相濟候處當四
月上旬欠落致し右始末ハ押隠し吉兵衛を猶又下請ニ頼長兵衛寄子ニ成齋藤次左衛門屋敷
へ中間奉公ニ相濟同月十八日同家來飯島專右衛門供ニ出候節清助見咎此ものを理不盡ニ
引連參殊ニ其砌清助儀專右衛門へ彼是雜言及ひ候段畢竟此もの欠落致し候より右始末に
も相成不屈ニ付江戸拂

巧事并取拵之部

巧事并取拵之類

享和元酉年五月朔日入半
同年六月十一日落着

根岸肥前守掛

淺草三好町
家主半七事

勘右衛門

右之者儀知人渡邊新作ハ不屈有之主人方ニて半舍申付其後欠落いたし且同人妻申聞候ハ
新作より其家中へ貸金有之尤口入金之積ニいたし置候間金主ニ成取立吳候様任頼ニ徳分
も可有之と存承届未徳用割合不取極内新作妻儀も相果候處借主齋藤又左衛門外六人へ掛
合金三兩三分銀四匁五分錢七匁文請取徳用ニいたし其後殘金三分證文面此者宛名ニ爲書
改願出候始末不屈ニ付蔽之上所拂申付之

重キ申掛ケ致し候類

安永三年六月

牧野大隅守掛

淺草福井町一丁目

三二九

本兵衛店
長助方ニ罷在候
同人男

半四郎

右之者儀當四月十一日同町源兵衛店長五郎事太七方へ參候處同店八右衛門罷在此者酒ニ給醉八右衛門を嘲り候より事起及口論八右衛門儀眞木を以此者を敲月代之内并面部へ疵付候間綱合候砌太七夫婦共何方へ歟罷越八右衛門儀も逃去候ニ付残念ニ存酒ニ給醉候紛太七方ニて長半博突有之此者所持之鳥目壹貫文并着居候布子被剝取候上被疵付候旨跡形も無之儀を申立駆込願いたし右體太七へ不輕申掛致候段番所をも不恐仕方不届之至ニ付江戸拂

巧事ニ馴合候類

天明三卯年十月

曲淵甲斐守掛

本材木町二丁目
町内書役當時欠落

佐兵衛方ニ居候

定八

右之者儀本材木町二丁目自身番屋へ相詰候節同町書役當時欠落佐兵衛聲にて盗人を捕候間出合候様申候ニ付當時無宿三五郎へ入口ニ居候間先へ出引續出合候處盜賊ニ候哉不見知男佐兵衛を組伏罷在三五郎へ下駄ニて右男を敲候ニ付俱々拳ニて敲佐兵衛を引放猶三人にて打倒候を三五郎儀右男之頭腰其外強踏候故相果候儀と存候得共最初様子も不承紀打擲いたし打倒剩佐兵衛申旨ニ任セ行倒者相果候體ニ致檢使願致し候ニ同意致し候段不届ニ付輕追放

似セ役之類

安永五申年十二月

曲淵甲斐守掛

南傳馬町二丁目
佐兵衛店
小平次伴

傳七

右之者儀當六月十四日夜同所伴次郎店甚助方にて南鍛冶町一丁目利兵衛店吉兵衛弟吉松并同町藤右衛門店金七悻伊之助と酒給合辭出候上山王祭禮前夜にて賑ニ付所々遊ひ歩行役人體ニ致し威し慰ニ可致と伊之助脇差を借り自分脇差と二腰帶渡世ニ遣候定木を十手と相見候様ニ脇へ差無錢にて拾六文分之蕎麥切を給又ハ所々番屋ニて湯茶を好青物町元大工町桶町番屋にて番人を起し臥り居候段不埒之旨申右定木にて番人書役を敲元大工町書役彌兵衛相佗候ニ任セ誤入候旨之書付を取町方同心之由申挑灯を借燈步行候段旁不届ニ付敲之上江戸拂

人勾引之類

寛政三亥年六月

池田筑後守掛

東湊町一丁目
次右衛門店
佐助方ニ居候

甚太郎

右之者儀先達て靈岸橋際埋立地三右衛門店平次郎抱賣女きよを買揚馴染末々妻ニ可致契

約致し置其後何方へ參候哉行衛不相知當五月十六日堺町芝居見物ニ參り候節見受可連退と存付靈岸島塩町新七店與八悻安五郎東湊町一丁目幸七店金右衛門悻欠落音五郎同町安兵衛店欠落利兵衛同町二丁目忠七店傳兵衛悻善太郎申合きよ事きちを途中にて理不盡ニ召連立歸密通不致段ハ吟味之上相分候得共夫有之女を止宿爲致候段不届ニ付敲之上江戸拂

似セ物拵賣出し候類

安永七戌年五月

曲淵甲斐守掛

通二丁目
喜右衛門店
喜兵衛事

喜右衛門

右之者儀十四年以前小傳馬町三丁目家主幸手屋茂兵衛方之虱失藥を似セ賣出し候儀ニ付茂兵衛方より願出及出入候處内濟致し以來茂兵衛方之藥ニ似寄候儀ハ勿論紛敷儀一切致間敷旨證文差遣候儀を相背又候此度從弟清八と申者を幸手屋茂兵衛と名乗手前ニ差置茂

兵衛方之藥を似セ包紙板行小傳馬町三丁目と申所書ニ無之候得共幸手屋茂兵衛と認服用之品ニハ無之候共藥并板行共ニ取捨人を欺賣徳取候仕方不届ニ付家財取上ケ中追放

車留之場所偽通り候者之類

安永八亥年二月

牧野大隅守掛

西紺屋町家持
八兵衛召仕

孫 八

右之者儀戌年十月十七日主人八兵衛留守之節御先手大久保彌三郎御切米百五十俵飯倉片町家持平八方へ車ニ積差送候途中車留之場所所有之旨承御藏より相渡候御切米ニ付御用も同様之儀と存候迎御用と書付候紙幟建右躰車留之場所を爲牽通候段不届之至ニ付中追放

ねたりゆすり之類

寛政三亥年九月

初鹿野河内守掛

本所長岡町壹町目
源藏店

半 六

右之者儀請合人も不取置當二月以來吉五郎を手前ニ差置剩同人儀小遣錢ニ差支候旨申ニ付四郎八は辻賣女致商賣金錢手廻り候者ニて以前此者も無心申金一分借請候儀有之ニ付罷越無心候様致遣ねたり事爲致候段彼是不届ニ付敵之上江戸拂

かたり之類

安永五申年五月

牧野大隅守掛

橋本町壹町目
長次郎店之者
喜八事

市 右 衛 門

右之者儀去未十二月十三日暮時分近所居酒屋ニて酒調給醉出又々酒給可申と存候得共所

持之鳥目無之候ニ付不斗惡心出小傳馬町三丁目家主居酒屋嘉平次方江罷越同町鐵物屋八兵衛隠居方より參候旨申偽酒壹升語取候段不届之至ニ付敲

押借之類

天明七末年

山村信濃守掛

本所松坂町二丁目

五人組持居

榮次郎方ニ居候

長

吉

右之者儀去未五月廿二日何方之者ニ候哉大勢集町々米屋居宅打壞及騒動米屋共怖居候由承り候ニ付米金無心可申と源之助申合同所相生町貳丁目吉右衛門店傳左衛門方江罷越米金貸與候様申掛金貳兩三分押借いたし不殘遣捨候段不届ニ付敲之上江戸拂

駈込訴致し候類

寛政十三酉年正月廿三日手領

享和元戌年三月九日落着

根岸肥前守掛

淺草阿部川町

權次郎店

富五郎

右之者儀火消人足致し候處當正月三日夜槍物町より出火之節他行致し詰場へ罷出身分之世話請候庄兵衛初組人足共へ對し氣之毒ニ存居候處右出火之節北御役所前にてを組る組之もの共と組人足と口論之上双方ニ疵人有之と組人足市五郎は右疵にて相果候ニ付追追入牢之者も有之内竹次郎儀は世話請候庄兵衛縁者(ニ)有之間救遣候は、悦可申と不斗存付竹次郎は疵付候ものニ無之此者仕業之者偽御役所へ駈込申立候始末不埒ニ付急度叱り

偽取拵相違申立又ハ申掛致し候類

安永三年四月

牧野大隅守掛

元飯田町

惣右衛門店

駒

平

右之者儀當二月朔日同町嘉右衛門店十五郎方へ罷越同人方ニ居候十助徳助手合ニ成かる
たニてめぐりと申博突致し鳥目取遣之儀より及口論兩人之ものニ打擲ニ逢候旨申立番所
へ駈込願いたし遂吟味候處十助徳助手合にて博突いたし候儀ハ偽にて一通に申立候てハ
取上有之間敷と存右體偽取拵申立候處實ハ同日武家方屋敷にて雇賃錢壹貫二百文請取十
五郎方へ罷越候處右錢紛失致し候ニ付彼是申候得ハ右兩人此ものを打擲いたし候旨跡形
も無之儀を申立駈込願いたし十助徳助へ不輕申掛ケ致し候段酒ニ給醉候とハ乍申不届之
至ニ付三十日手鎖

盜賊之部

戸明盜之類

安永六酉年六月

曲淵甲斐守掛

駿河町庄兵衛店
次郎兵衛方居候

甚助

右之者儀當二月廿二日南茅場町を通過候節不斗惡心出同町忠兵衛店喜八方表入口之戸少明
有之家内熟睡致し候様子ニ付明ケ這入小袖二ツ錢百文餘傘一本盜取候段不届ニ付入墨之
上重敵

手元盜之類

寛政元酉年十二月

池田筑後守掛

深川諸町
彌七店
彌吉事

三次郎

右之者儀當十月十日日本所縁町一丁目家持喜左衛門方へ咄ニ罷越候處見世次之間二階上り
口人不居合候ニ付不斗惡心出何ニても盜可取と存二階へ上り竿ニ掛有之棧留立鳥給羽織
一紺木綿給羽織壹盜取深川森下町家持平兵衛方へ一分二朱百文ニ質入致し右金錢雜用ニ
遺捨候段不届ニ付入墨之上敵

途中盜之類

文化二丑年九月廿五日入牢
同年十一月十六日落着

根岸肥前守掛

元赤坂町音右衛門店
藤兵衛方ニ居候
利兵衛事

龜藏

右之者儀當五月以來上野山下其外人立場ニて往來人之懷中鼻紙袋三ツ拔取内ニ有之金二分二朱取出し其外腰錢三百文盜取其後番町邊往還ニて古着買荷籠之内ニ有之衣類三ツ盜取又ハ富澤町市場ニて混雜之紛古着三ツ盜取逃去右品々ハ賣拂右金錢不殘酒食ニ遣捨候段不届ニ付入墨之上敲

預り置候品質入致し候類

安永五申年十二月

曲淵甲斐守掛

牛込若宮町
傳六店
宇兵衛方ニ居候

彌八

右之者儀同所榎町家主惣八方ニ居候針醫長意より預り置候衣類七品長意へ無斷追々持出同所無量寺門前家主次左衛門[方江]持參關口水道町利平次店勝之助方より質物差越候由偽申達度々二貫七百文ニ質入致し雜用ニ遣ひ捨候段不届ニ付敲

使先取逃之類

天明七未年十一月廿七日

曲淵甲斐守掛

神田松下町壹丁目
代地吉左衛門店
九番組人宿
吉左衛門寄子

金次

右之者儀宇田川町庄藏店忠次郎方ニ罷在候内忠次郎申付飯米調候鳥目三百文請取罷出候

使先より右鳥目取逃致し剩忠次郎口上を偽知人松平飛彈守家來大沼忠藏方にて羽織一ツ
街取往來之古着買へ四百文ニ賣拂取逃錢共都合七百文酒食ニ遣捨候段不届ニ付入墨之上
敲申付吉左衛門并五人組へ引渡遣ス

横取上借之類

安永八亥年八月

曲淵甲斐守掛

牛込拂方町
八右衛門店
清兵衛引取之店子

清助

右之者儀清水大番池田作左衛門より同所小十人牛窪唯七方へ相届吳候様相頼候間衣類二
品其外傘下駄等請取候處其節雜用ニ差支當分之間を合可申と右之内衣類二品質屋小石川
金杉水道町家主傳兵衛方へ質物ニ差置質代金一分雜用ニ遣候處右品々如何致し不相届延
引致し候哉早々相届候様小石川金杉水道町家主文右衛門より申聞候ニ付驚入右質入致し
候衣類二品早速受戻し其外之品々取揃差遣し候儀ニ候得共一旦右及始末候段不埒ニ付

敲

盗物怪敷品取扱之部

盗ものと不存取扱自訴致し候類

安永二巳年四月六日

牧野大隅守掛

神田鍋町西横町
平八店

彌助

右之者儀下駄細工渡世致去辰九月十二日車力躰之者罷越田舎より筏ニ組來候槻二本有之
拂物ニ付買取候様申ニ付右木品見候上可調旨申聞右之者同道ニ而參候得は神田川水中筏
組槻二本有之代金一分二朱ニ買取右之者名住所等は不承置此者河岸へ乘廻し得と改候處
節木ニ而下駄ニ難成間三河町一丁目次助店古木屋太兵衛方へ賣拂候積りニ而代金は不相
極河岸揚致し置候處本郷竹町家主材木屋庄兵衛罷越右は同人方紛失物之由相斷太兵衛へ
木品預候由申聞候ニ付驚入賣主所々相尋候得共不見當一同訴出右躰之品とは決而不存買

取候旨申候得共名住所不存車力躰之もの任申旨得と出所并名住所も不相糺書付も不取置
紛失之品買取太兵衛方へ賣渡候積ニ而河岸揚致し置候段不埒之至ニ付右品庄兵衛方へ爲
相渡代金錢損失申付併訴出候間答は差免

盗物怪敷品と不存取扱候類

天明四辰年四月

山村信濃守掛

淺草聖天町
源兵衛店

惣 七

右之者儀居酒商賣致し罷在去卯九月廿七日淺草聖天横町又兵衛店虎松同所諏訪町藤五郎
店清八方ニ居候清五郎罷越酒肴調給代錢不足之由ニて持參候鍋一右殘錢相濟候迄預置候
様申聞候ハ、出所も不相知品ニ付可及斷處預り置既ニ右品ハ清五郎盜物ニ有之右之通出
所も不糺盜物之品預り置候段不埒之至ニ付過料三貫文

盗物と不存買取候類

安永三年二月廿七日

牧野大隈守掛

深川一色町
小左衛門店

清 右 衛 門

右之者儀菓物致商賣罷在住所不存喜八と申者椎之實六俵半船ニ積參買取吳候様申ニ付代
金一兩三分と錢三百八文ニ買取候處右喜八儀は無宿ニ而賣拂候品は本湊町八兵衛方ニ而
取逃之品之由承之訴出候旨申候得共住所不存者任申旨得と出所も不相糺書付等も不取置
右躰之品買取候段不埒之至ニ付右品取上代金錢損失申付之

盗物怪敷品と不存貰受候類

文化二丑年六月廿五日落着

根岸肥前守掛

新吉原江戸町二丁目
家持遊女屋
彦右衛門抱遊女

三四五

右之者共儀上總國片貝村百姓金藏ヨリ銘々貰受候金子ハ不正金子ニテミヤコシ貰請候單物モ是又不正金ヲ以調候品ニ付右品金子共取上ル

盗物と乍心付貰受候類

天明五巳年七月

山村信濃守掛

本銀町三丁目
喜右衛門店

長 八

右之もの儀彦次郎ニ被頼賣遣又は預り置候たはこ五箇は怪敷品と乍心付世話料ニ可貰受と右之内二箇は右藤藏へ渡遣残り候分此者方ニ居候藤助并住所不知喜助へ追々ニ金三兩二朱ニ賣遣一分二朱世話料貰請雜用ニ遣捨殊ニ藤助は請合人も無之處數日差置候儀共旁不届ニ付蔽

盗物と不存質ニ取候者之類

享和三亥年四月廿五日落着

根岸肥前守掛

三河町二丁目
家持質屋

與左衛門

右之者儀吉兵衛勘兵衛使之由ニ而勘助質通帳持參候質入之品は紛失ものニ有之處其儀ハ不存候とも得と出所も不相糺殊ニ質屋定法相背置主證人江對談も不致故右體之品質物ニ取候段雖訴出右始末不埒ニ付右品取上過料錢五百文

盗物と乍心付買取候類

寛政十二申年十二月

根岸肥前守掛

北嶋町幸次郎店
與八方ニ居候

右之者儀無宿安五郎外二人より買請候品々ハ右之者共盜取候品ニ有之處怪敷品と乍心付
徳用ニ泥ミ度々買取右品賣拂金二兩三分二朱錢五百文程賣徳取不殘酒食雜用等ニ遣捨候
始末不届ニ付入墨之上敲

盜物と不存質ニ取候節證人印形取拵通帳へ押置候
者之類

安永三年二月

牧野大隅守掛

淺草今戸町

家持質屋

彦兵衛手代

彌兵衛

右之者儀主人彦兵衛質屋致渡世罷在兼々同町家主六郎兵衛置主同人店傳兵衛證人ニテ質
物取來候六郎兵衛方ニ居候由庄八と申者去巳七月廿九日衣類二ツ張返物三反持參質入致
度由申ニ付無印ニテ質代金三分百文貸遣右品其後請戻又候九月十三日庄八參り新鳥越二

丁目五兵衛店新六方ニ罷在候由申右品之内衣類一ツ張返物二反質入いたし度由申ニ付置
主庄八證人新六ニテ可有之と存質帳ニ相記其節も無印ニテ質代金二分百五十文貸遣候處
同十七日庄八被召捕候段承訴出候節右躰無印之質物取候ては咎可請と有合之印形庄八名
前之下へ押置候段取拵候仕方主人之商賣向引請取計候身分ニテ不届之至ニ付江戶拂

等閑又ハ危忽之部

不筋之取計又ハ世話致し候類

天明四辰二月

牧野大隅守掛

深川永代寺(門カ)前仲町
要助店

榮次郎

右之者儀かねを新吉原町江遊女奉公其外道中筋旅籠屋飯賣下女奉公ニ相濟候筈ニ勘助江
對談致し仕切置同人江無沙汰ニテ受人ニ相立同所山本町五郎兵衛店賣女屋榮藏方江賣女
奉公ニ相濟候段不埒之至ニ付過料三貫文申付之

世話料貰受候類

文化元子年七月二十三日落着

根岸肥前守掛

淺草寺地中

延命院地借

重次郎店

惣 右 衛 門

右之者儀當時住所不知源次郎任頼つる方へ遊女奉公世話致遣候ひで事難町ハ穢多之娘にて致欠落候者に有之處其儀ハ不存候共得と身元も不相糺殊ニ人主善六住所も不見届右體之者を奉公濟之口入致世話料金二分貰請候段訴出候とハ乍申不埒ニ付右世話料取上過料三貫文

不實之取計致し候類

安永午三年二月

牧野大隅守掛

四谷坂町

次郎兵衛店

久 米 之 助

右之者儀新五郎店請人ニ相立七五郎店ニ差置候處右新五郎儀加役方掛リニて入牢致し吟味中令病死候ニ付死體引取候様同人妻さき及相談不如意ニて難引取由申候共女之儀ニ候得ハ如何様ニも取計引取片付可遣處無其儀不實なる致方不埒之至ニ付過料三貫文

巧事取拵等を不存類

安永二巳年十二月

牧野大隅守掛

富澤町平兵衛店

次 郎 兵 衛

右之者儀同町藤兵衛店甚兵衛牢屋敷御普請入札致し右ニ付宅見分之節家主五人組江致内談置此者居宅を甚兵衛宅之由申立見分受候由吟味之上承之右體之儀被相頼候儀決て無之旨申候得共此者宅を役人致見分候ハ、不審なる儀ニ有之間可心付處無其儀不埒之至ニ付急度叱り

事實も不糺相違之書付認遣候類

寛政元酉年四月

山村信濃守掛

芝金杉裏五丁目

家持嘉兵衛方ニ居候

源次郎

右之者儀宿嘉兵衛ニ被頼願書認遣候ニ付禮物等貰受候所存ニハ無之候得共右嘉兵衛儀懇意之者故利運ニ相成候様致し遣度五年以前之儀を當時之趣ニ訴狀認遣候段不埒ニ付所拂

不筋之書付へ連印等致し候類

享和三亥年七月六日預

同年八月六日落着

根岸肥前守掛

神田平永町

幸七店

善兵衛

右之者儀利兵衛より伊兵衛へ用立候金子ハ不正之貸付方ニて如何之儀と乍存同人任頼證人ニ相立罷在候段不埒ニ付過料錢三貫文

不念粗忽又ハ心得違之類

安永九子年十月

牧野大隅守掛

芝田町四丁目

半兵衛店

五兵衛

右之者儀長兵衛方より相掛候雜穀代金出入ニ付長兵衛代次助持參候差紙を跨候旨次助申立右者差紙有之を乍存跨候儀ニてハ無之夜中之儀故若過チニて跨候哉難計旨申立候得共孰ニも差紙を跨候段不埒之至ニ付叱り

火之元鹿末ニ致し候類

天明四辰年二月

牧野大隅守掛

神田小柳町三丁目
抱番人

喜 助

右之者儀今曉七時廻りニ罷出候跡番屋より出火致し右番屋并隣家明店二階上計類焼致し候段火之元龜末之至り不埒ニ付十日押込

湯番等閑之類

寛政十一未年十月二十三日落着

根岸肥前守掛

櫻田備前町

忠兵衛店

甚兵衛召仕

孫 七

右之者儀湯入之者衣類等戸棚へ入番附有之鍵を預り替札相渡置預り候鍵之番附引合候仕來之處入湯之もの多混雜致し候迎替札不相渡既ニ田北黄旗より預り候鍵を外湯入之者へ相渡衣類大小等盜着逃致候をも不存罷在候段番人之詮も無之等閑之至不埒ニ付三十日手

鎖

印形龜末ニ致し候類

明和九辰年十月

牧野大隅守掛

御醫師

多記安元召仕門番人

喜兵衛方ニ當分罷

在候

喜 右 衛 門

右之者儀淺草田原町ニ罷在候節本所吉田町四郎兵衛店源七相店ニ付源七置主此者証人ニて淺草西仲町五兵衛店質屋善三郎方へ質入致し來此者印形質屋へ預置勝手ニ付去卯十月總町平川町へ引越罷在候處類燒致し候ニ付多記安元門番人喜兵衛方へ此者兄ニ付相頼當分罷在候處源七衣類其外四品質屋善三郎方へ致質入候ニ付遂吟味候處右質物源七善三郎方よりも不申聞一向不存吟味之上源七盜物之由承候旨申候得共印形龜末(ニ)致し候故右體盜物之質證人ニ相立候をも不存罷在候段不埒之至りニ付急度叱り

身元不慥なる者差置又は世話致し候類

寛政元四年八月

山村信濃守掛

富嶺町平藏店

嘉兵衛

右之者儀源七ハ不屈有之先達て江戸拾里四方追放ニ相成候者ニ有之儀乍存當二月以來手前ニ差置其上源七身分爲片付弟久次郎名前ニて花會爲致候段不屈ニ付江戸拂

科人を逃し遣又ハ盗物内分ニて取計候類

寛政三亥年四月

池田筑後守掛

淺草西仲町

家主

與市

右之者儀被盜取候品七藏方ニて見當り候ハ、早速吟味可相願處彌七達て相詫候内分ニ

て右品請取候段家主之身分ニて別て不埒ニ付叱り置

不糺又ハ筋違之願等いたし或ハ無證據之儀申立候類

安永六百年十一月

牧野大隅守掛

淺草田町壹丁目

三郎兵衛店

源八方ニ居候同人兄

傳六

右之者儀淺草寺地中德應院地面借受罷在候節家作之儀ニ付當九月十二日寺社奉行戸田因幡守方江駈込願いたし候ニ付當番所江引渡ニ相成遂吟味候處家作は早速引拂相濟候儀ニ候得共右德應院地面ニ有之所持家作同寺買戻候様致渡存寄ニ候は(は)宿源八并町役人江申談番所江可願出處無其儀德應院を相手取因幡守へ驅込願いたし筋違成致方不埒之至ニ付急度叱

可糺筋等閑之類

享和元酉年二月十六日落着
根岸肥前守掛

淺草六軒町
家主

政次郎

右之者儀源助と申者へ店貸吳候様孫右衛門申ニ付店請人之儀掛合候中源助儀疊建具等持
參引移候迄明キ店ニ差置吳候様申候迎得と身元も不存殊ニ店受人も不取極内ニ有之上ハ
可相斷處無其儀既ニ同人儀右店ニ住居候體ニ致し喜兵衛方より反物類街取逃去候始末ニ
相成候段不埒ニ付急度叱り

公事合當日不參致し候類

天明六年二月

山村信濃守掛

音羽町九丁目

惣吉店

善兵衛方ニ居候

同人弟

三五郎

右之者儀北島町元右衛門店甚藏代善藏方より兄善兵衛へ相掛候貸金出入有之去已十二月
十四日可罷出差紙相附善兵衛代罷出候ハ、掛方へも得と掛合可申處無其儀切金不足ニテ
難受取旨申候迎其分ニ致し罷歸公事合當日致不參候段不埒ニ付三十日手鎖

役筋等閑之類

安永元辰年十二月

牧野大隅守掛

靈岸島銀町三丁目

名主

孫市

右之者儀靈岸橋際埋立地より靈岸島町へ相渡候假橋往來之儀とも願之通申付候儀と手代
與市心得違申聞候とも訴出指圖之上往來爲致候儀と可心付處畢竟等閉ニ取計候故右體之
儀有之名主役も相勤候身分ニ有之間敷儀不埒ニ付三十日押込

申付方心付方不行届之類

三五九

明和九辰年三月

牧野大隅守掛

本銀町四丁目

家持

庄 左 衛 門

三六〇

右之者儀下金買致渡世商賣向之儀ハ手代利兵衛ニ爲取計候處神田銀治町二丁目伊左衛門
店三次兵衛方より印形も不取置潰金買取候段平日申付方未熟故右體之儀も有之不埒之至
ニ付右潰金取上候上過料三貫文

請負之御用向又ハ上納金等差支候類

安永四年十月

牧野大隅守掛

永島町

清兵衛店

白子屋

勘 七

外一人

右之者共儀當八月深川筋御成之節潮見橋平野橋 渡御ニ相成右兩橋共致大破候間急御修
復申付候處差掛り金子ニ手支難儀之趣申出先年之例を以金二百兩拜借相願右ハ過分之拜
借願ニ候得共御差支ニ相成候故願之通金二百兩拜借申付候ニ付御修復出來致し御間ニハ
合候得共 渡御ニ相成候橋之儀ニ候間兼々御修復致し差支無之様可致處無其儀御成御沙
汰ニ付差掛り御修復難成旨申立右之通拜借金願出候儀共定請負致し罷在候詮も無之等閑
之致し方不埒之至ニ付一同急度叱り置以來ハ隨分入念可申候

預之者を取逃し又ハ囚人取逃候繩取人足之類

文化二丑年十二月四日落着

根岸肥前守掛

淺草平右衛門町

清兵衛店

己 之 助

右之者儀弟次郎吉儀權次郎を打擲致し候ニ付次郎吉ハ家主清兵衛へ相手方より相預ケ同
人俱々附添居候處清兵衛儀檢使之者參候哉見届ニ參候内馴合候ニハ無之候共一旦次郎吉

三六一

を取逃候段畢竟心附方等閑ゆへ不埒ニ付過料三貫文

捨置間敷儀等閑之類

安永二巳年四月

牧野大隅守掛

小船町三丁目新道

次兵衛店

半兵衛類ニ付

代

新 助

右之者儀半兵衛方紛失之杉皮廿把非人頭善七手下小網町一丁目河岸小屋頭喜太郎小屋脇ニ有之候を見出候へ、町役人共へ相斷訴出差圖可受處右町役人并主人へも不申聞無沙汰ニ致右品取入置候段不埒之至ニ付叱り

心得方未熟之類

天明四辰年五月

山村信濃守掛

淺草三間町

彌七店

彌右衛門召仕

伊 兵 衛

右之者儀當閏正月十六日木挽町又兵衛店六兵衛召仕竹松主人彌右衛門方へ使ニ參り候ニ付兩人ニテ酒調給候上無分量も給酔竹松と連立主人方罷出於途中衣類竹松ニ被剝取候をも不存裸ニテ主人方へ立歸候始未不束之至ニ付叱り

惡事致し候者と不存酒食振舞受候類

文化元子年十二月十九日落着

根岸肥前守掛

四谷豐町三丁目

三右衛門店

安 五 郎

右之者儀土田章太夫八品々惡事致出奔致し候者ニ有之處其儀ハ不存候とも得卜出所モ不

相糺度々旅籠屋へ同道いたし参飯賣女を酒之相手ニ致し酒食振舞受候始末不埒ニ付急度叱り

一旦御仕置ニ成候後又ハ吟味中等ニ惡事致し候部

御構場所へ立入候類

享和二戌年六月廿一日入半
同年七月廿一日落着

根岸肥前守掛

深川森下町
徳右衛門店

三平

右之者儀深川築出新地久四郎店ニ罷在候砌不届有之所拂ニ相成店受人南小田原町甚右衛門方へ立去候得共元宅へは妻とりを表向離縁之姿にて差置夜中忍ひ候て元宅へ立入且召仕女りと取戻之儀ニ付同人父長右衛門出訴および此もの被相手取候ニ付俄徳右衛門店を借請召仕りとを妻之積人別差出返答書も右取捨之姿を以申立御構之地元宅へ度々立入候

段不届ニ付入墨之上江戸拂

御構場所へ立入博奕致し候類

文化二丑年五月十九日入半
同年閏八月六日落着
根岸肥前守掛

深川海邊大工町裏町
善吉店
庄兵衛方ニ居候
入墨

七五郎

右之者儀先達て不届有之入墨之上敲御仕置相成候處右入墨を消紛又ハ博奕致し候依科如元入墨之上江戸拂御仕置相成候處右御仕置を不相用御構之地エ立入江戸拂御仕置ニ相成候儀ハ押隠し林蔵後家はつ方へ入夫致し庄兵衛方ニ罷在其上深川洲崎原地にて名住所不存者共手合に加里御法度相背四五錢賭之なんこと唱へ候博奕兩度致し候始末不届ニ付江戸十里四方追放

御構場所へ立入代人を以出訴候類

文化元子年五月七日入牢
同年十二月七日落着

根岸肥前守掛

淺草善慶寺門前
嘉兵衛店
官次方ニ居候

與 八

右之者儀先達て不届有之江戸十里四方追放ニ相成候身分を押隠し御當地へ忍出當宿官次方ニ罷在病氣と偽右官次を此もの代相頼上總國味庄村八郎右衛門外二人を相手取身上被取潰候出入品々不取留儀を訴狀認差出候始末奉行所を不恐仕方殊ニ相手方本人共之内ハ當時死失致し候ものも有之前後不都合之儀共ニ付出訴之趣も可及吟味筋ニ無之旁不届之至ニ付輕追放

御構場所へ立入公事合ニ出候類

寛政九巳年五月九日入牢
同年九月十一日落着

小田切土佐守掛

四谷南寺町東福院門前
半七店

清 五 郎

右之者儀先達て不届有之江戸拂ニ相成一旦在方知人方へ立退罷在候處農業太儀ニ候迎御仕置を不相用御構場所へ立入店持罷在剩右忠右衛門より相掛り候奉公人判賃出入公事合ニ罷出候始末旁不届ニ付重敲之上江戸十里四方追放

御構場所へ立入奉公人之請ニ立候類

文化四卯年二月廿八日入牢
同年四月七日落着

根岸肥前守掛

下谷御切手町
泰助店

新 八

右之者儀素人にて奉公人之請ニ立候儀ハ親類之外ハ難成儀ニ候處先達て身元も不相分者共拾人迄請ニ立奉公濟爲致判賃徳用ニ致し候不届にて敲之上江戸拂御仕置ニ相成一旦御

構場所立去候得共御仕置を不相用御構之地へ立入右身分之儀ハ押隠し店持其上又候身元も不相知もの共都合五人之請ニ立奉公濟爲致判賃徳用致し右奉公人之内欠落致し候ものも有之候處給金辨納不致剩清五郎儀此もの受人ニテ差置候奉公人欠落帳付之儀奉行所へ願出候節同人俱々訴出候始末奉行所を不恐仕方旁不届ニ付蔽之上中追放

御構者を見捨置候類

享和元酉年十月十八日落着

根岸肥前守掛

井町喜兵衛店
平次郎方ニ居候

源 六

右之者儀俵源次郎儀ハ先達て不届有之江戸拂御仕置ニ相成候身分ニテ御構場所へ立入當七月十日元岩井町清七店ニ罷在候節忍ひ參候ハ、早速捕押可訴出處無其儀段不埒に付過料三貫文

御構者之店受ニ立候類

享和元酉年四月十六日預
同年六月二日落着

根岸肥前守掛

小傳馬町三丁目
小兵衛店

永 藏

右之者儀新兵衛ハ先達て不届有之蔽之上江戸拂ニ相成候者ニ有之處其儀不存候共所拂ニ相成候段申聞候ハ、元町役人へも掛合可相糺處無其儀右躰之もの店受ニ相立候段不埒ニ付過料錢三貫文

御構場所へ立入取拵致し候を不存罷在候類

享和二戌年七月廿一日落着

根岸肥前守掛

南小田原一丁目
次兵衛店

甚 右 衛 門

三六九

右之者店受ニ相立深川築出新地久四郎店ニ差置候三平儀ハ不届有之所拂ニ相成候節妻と
リハ離縁いたし諸道具等差遣是迄之店ニ差置候趣ニ付三平召仕女りと兩人ハ手前へ差置
候處右りと取戻之儀ニ付同人父長右衛門より三平相手が被取候ニ付深川森下町徳右衛門店
借受りとを妻之趣ニ人別差出候節も店受人ニ相立其上三平儀御構之地元宅へ立入候をも
不心付罷在候段不埒ニ付急度叱り

入墨消紛し候類

安永七戌年八月

牧野大隅守掛

本所吉町彌左衛門店
新七方ニ居候
同人妻之弟
入墨

政次郎

右之者儀先達て盜致し候不届有之敵御仕置ニ相成又ハ御法事之御敵ニ相成候後も盜致し
候依科入墨之上門前拂相成右入墨已後ハ盜惡事無之旨申候得共姉婿當宿新七方へ参り相

頼同居致し度候得共入墨有之候てハ差置中間敷と存御仕置を不相用入墨之上へ自分と雲
形を彫入墨を消紛し去々申六月中旬より新七方へ参り入墨御仕置ニ相成候儀押隠罷在候
段不届之至ニ付如元入墨之上江戸拂

入墨又ハ敵相成候後惡事致候類

寛政二戌年八月

初鹿野河内守掛

靈岸島川口町
伊兵衛店

六右衛門

右之者儀先達て新和泉町清兵衛店針醫河合文榮へ金子無心申掛貸吳不申候連惡口致候依
科敵御仕置ニ相成候處惡事不相止途中にて口論致候節所持金紛失致候旨相手へ偽申掛又
ハ文榮方より堺町長三郎店佐市親又左衛門方へ差越置候三味線箱文榮より金子貸吳不申
代りニ可借受旨申持歸金子請取候上差戻遣兩度ニ金壹兩二朱ゆすり取雜用ニ遣捨候段不
届ニ付入墨

吟味中又ハ手鎖預中惡事致し候類

天明四年十二月

曲淵甲斐守掛

淺草長樂寺門前
佐市店

喜兵衛

右之者儀御法度相背隠賣女抱置商賣致し剩吟味中掛置候手鎖を外し他行致候を家主佐市見咎連歸候儀を遺恨ニ存佐市宅へ踏込あばれ立噪候段旁不届ニ付敲之上江戸拂

一旦御仕置ニ成候後前科顯候者之類

安永八亥年八月

牧野大隅守掛

徳草駿屋町
徳兵衛店
小文次事

清藏

右之者儀先達て無宿にて罷在候節衣類可語取と存去戌正月十五日四谷傳馬町二丁目清兵

衛店古着屋次右衛門方へ罷越衣類品々七帶一筋爲出見候上代金宿元にて可相渡〔故カ〕爲持遣
吳候様申聞次右衛門召仕新八右品を持付添參候ニ付麴町九丁目横町御使番別所孫右衛門
番所へ參〔り〕右衣類着し見申度間貸吳候様新八へ申聞請取着居候衣類と着替候所代金相渡
候様申ニ付金子不有合候間麴町質屋迄參吳候様乍申番所を罷出透を見合逃出候得共被捕
右品々被取戻新八儀宿元へ連歸候途中裸にて見苦敷候迎右品之内黒袖小袖一ツ爲着候ニ
付所持之手拭を帶と致し途中にて振放逃去赤坂田町五丁目伊兵衛店新兵衛方へ參り同人
抱賣女そめを買揚致し宿右小袖ハそめへ遣し同人を〔誘ノ誤〕透引出し候上そめと及口論互ニ疵受
其節吟味ニ相成致入牢候得共右躰衣類語取候儀ハ押隠不申立同閏七月二日江戸拂ニ相成
在方へ參り候處渡世難相成候迎御仕置を不相用御構場所へ立入店持罷在候段不届之至ニ
付入墨之上輕追放

牢又ハ溜内錠を背候類

寛政元酉年十二月

初鹿野河内守掛

本郷新町屋

清 次

右之者儀先達て江戸拂申付以前吟味中入牢致し罷在候節相牢囚人共之内致出牢候者有之節ハ半舍赦免願可致旨宿元へ申通吳候様度々相頼剩當二月以來牢屋下男喜八を頼身寄之者へも相談致し出牢相成候様致し度旨妻さよ方へ申遣其後も兩度用向申遣牢内之掟を相背候段不届ニ付江戸拾里四方追放

町醫之部 老中差圖

盜賊之部

横取上借之類

寶曆五年七月廿五日

松平右近將監殿御差圖

土屋越前守掛

上州甘樂郡

宮崎村町醫

篠崎松庵

右之者儀麴町平川町ニ罷在候節高砂町伊兵衛方より拂書物二通りにて金八九拾兩にも相拂度由申聞預置其節金澤町ニ罷在候山本道壽方へハ此者所持之由偽り金七兩二分ニ賣拂代金横取致欠落前田大和守領分上州七日市へ參り大和守家來保坂庄兵衛始其外之者共へハ右之始末相隠居候不埒より事起り横山町傳次郎取扱内濟之儀を申立ねたり候て大和守家中之者共より過分之金子爲差出難儀を相掛ケ不念之者も出來剩吟味之節道壽欠落いたし行衛不相知を幸ニ存右書物道壽方へ遣置候處屋敷方へ相拂代金滯道壽欠落いたし候旨取拵偽りを申道壽有家相知呼出し突合候上にて有體之儀を申聞候儀とも重々不届至極ニ付遠島

町醫之部 奉行手限

掟事并御觸申渡等を背候部

法式背候類

寛政十二申年二月七日落着

根岸肥前守掛

三七六

本材木町二丁目
惣八方
町醫師鶴翁方ニ居候
同人弟子

三 入

右之者儀先年死失いたし候木村一馬より坐興同様之記憶傳と申儀傳授致し尤一馬儀先年右看板掛ヶ置候儀其外不埒有之於奉行所ニ咎受候儀ハ不存由ニ候得共去未十二月龍徳方へ被届候後右物覺記憶之儀傳授いたし候ハ、其身并龍徳ためニも可相成と看板を出し先年一馬申聞候由ニて奉行所にて吟味相濟候旨之下札迄致し候段不埒に付三十日押込

捨物内分取扱候類

享和二戌年十月十八日落着

根岸肥前守掛

本録町二丁目

彌兵衛店
町醫

琳 琢

右之者儀召仕新藏取逃致し候挾箱ニ入置候藥箱深川蛤町次右衛門家前ニ捨有之候趣及承漏越表立候てハ不束ニも相聞可申と次右衛門へ相頼町役人へも不申聞相對にて受取候段不埒ニ付過料錢三貫文

博奕之部

博奕又ハ賭事致し候類

安永六酉年三月

牧野大隅守掛

市兵衛店
町醫師
小 柳 玄 榮
外一人

三七七

右之者儀去申年拾二歳ニ相成候悴文五郎儀同正月二日暮時過福引いたし度旨申ニ付無用ニ致候様申聞候得共幼年者故不聞請妻てう召仕平助相手ニ成壹錢賭之福引致し候節知人無之當時無宿傳兵衛五郎兵衛と申者兩人參り金子貸吳候様申候得共難用立山及斷候處右體博突ケ間敷儀致し不埒之山聲高ニ申募候間無據金壹分遣候旨申候得共幼年之悴福引致度段申候得共博突ニ似寄候事故如何様ニも可差留處無其儀壹錢賭之福引爲致其上聲高ニ申候連金子壹分渡遣候儀とも旁不埒之至ニ付兩人共三十日押込

御仕置宥恕之部

舊惡之類

安永五申年七月

牧野大隅守掛

伊奈半左衛門御代官所

武州荏原郡

大森村俗醫

左近

右之者儀伊奈半左衛門御代官所北品川宿寄合御醫師細川宗仙抱屋敷地守清左衛門方居候松葉英俊儀ハ平賀玄孝と申元御醫師にて致出奔候者ニ候處六年以前卯年秋中より己年四月迄手前ニ差置候段不埒之至に付押込可申付處四年以前之儀にて舊惡ニ付咎之沙汰ニ不
及

巧事并取捨之部

火札張候者之類

安永六四年四月

牧野大隅守掛

本八町堀一町目

利兵衛店

町醫

篠原市針

右之者儀當組與力滋野傳兵衛拜領屋敷添地借地致し居候阿部豊後守殿醫師岡田隱安方へ五年以前春中悴録後を擧養子ニ遣候處去申四月中致離縁差戻候間手前ニ差置候處無程務

症相煩同十一月中致病死兼々隠安夫婦之者致方不宣鎌後心勞致し右病氣にて相果候儀と致推察残念ニ存難儀可相掛心底にて同十二月中兩度附木二枚之表年内中引拂可申裏ニ地面之内より出火可致由自筆にて認瓦かけを木綿繼々切ニ包投込又ハ瓦かけ計を度々投入誠ニ推量のミにて右體始末おひ候段醫業をも致し候身分ニ有之間敷旨別て不届之至ニ付江戸十里四方追放

偽取拵相違申立候類

安永三年四月

牧野大隅守掛

坂本町二丁目
市郎兵衛店
町醫師
宇野見卓弟子

新五郎

右之者儀去ル十六日夕七ツ時過見卓留守之砌同人宅より出火致し火之元鹿末之由嚴敷叫り受可申と存候迎見卓孫幼年之善次郎へ申含右出火ハ隣家忠兵衛家前ニ建有之候古木よ

り燃立見卓方門屋根より其外へ火移候儀之旨見卓へ申聞見分之節も同様申立相違之口書差出候段不埒ニ付三十日押込

等閑又ハ鹿忽之部

科人を逃し遣又ハ盗物内分にて取計候類

天明八申年五月

山村信濃守掛

佐久間安次郎地借
町醫師

小笠原友益

右之者儀請合人も不取置元召仕專助を手前ニ差置其上家内一同留守之節同人品々致取逃候ニ付帳付町觸等願置候上ハ專助召捕候ハ早速可訴出處無其儀取逃之品金子差出内々にて差免可遣と專助を武州川崎宿へ連參同所家主又四郎地借佐五兵衛へ預置其後又候手前へ引取數日差置候儀共旁不埒に付押込五十日

女之部 老中差圖

控事并御觸申渡等を背候部

法式背候類

文化二丑年十月十一日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

山玉町

與八店

定右衛門方ニ居候

う

た

右之者儀父忠八怪我致し候ニ付非人小屋頭三右衛門方ニ而白膏と申油藥買調知人ニ相成代錢差遣不申候節も有之候得共三右衛門儀無厭右油藥差越吳候處同人娘共江三味線教吳候様被相頼斷も難致候迎家内之もの江は押隠し居小屋江夜中忍罷越非人之娘江三味線教遣し候段不埒ニ付所拂

不實不仁之取計致し候類

寛政十二申年七月二日揚屋ニ入
同年十月十一日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

音羽町六町目

五郎兵衛店

仁兵衛妻

そ

よ

右之者儀當六月廿九日暮時頃町内往還ニ而富五郎伊之助其外大勢及口論候趣承夫仁兵衛儀も罷出右伊之助ニ強打擲ニ逢相果候處長之助任申ニ夫之變死を押し隠し手之者御仕置輕相濟候ハ、仁兵衛菩提之爲ニ可相成と存候迎病死之積り相違之儀を申立候儀共不屈ニ付江戸拂

御差圖中追放

〔右御仕置附〕 右相當之例相見不申安永四年曲淵甲斐守町奉行勤役之節伺之上申付候小普請組元青山主馬組高野市左衛門妻たよ儀夫高野市左衛門も手合ニ加り宅ニ而賽博突致し

候を差留も不致其上市左衛門儀小普請組久留島數馬組野崎八十郎弟野崎十次郎より博奕之賭錢借受不相返殿敷催促いたし候より事起殺害ニ逢末期ニおよひ相手は十次郎ニ候得共不宜事ニ而右始末ニおよひ候上ハ相手不相知趣ニいたし隱便ニ事濟候様勘辨致し可取計旨市左衛門申置候迎相手不相知趣ニ申立候様爲次郎江申聞相組世話役并頭ニ而尋之節も相違之儀取繕申立夫を殺害致し候相手乍存押隠し罷在候段不届ニ付追放申付候例ニ見合此者儀ハ身分も違其上長之助申勸候ニ泥候儀ニ而一體之始末格別品輕く御座候間江戸

賄賂之類

享和三亥年正月廿一日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

新吉原角町

長右衛門店

與兵衛妻

ろ

く

右之者儀りせ所持屋敷取戻之儀夫與兵萬柄と申合取扱候儀并出入之始末は不存候得共善六儀掛役人江手筋有之間與兵衛身分宜様頼遣べく旨申候を實事と心得兵藏江引合貰役人江遣候反物代金として壹兩兵藏江相渡其後役人江手入等之由ニ而善六江金子差遣候始末夫之身分品能相濟度存候迎與兵衛申分ニ隨ひ右體之取計致候段女之儀とは乍申不埒ニ付三十日押込

〔右御答附〕 右夫與兵衛取扱之儀は不存奉行所掛役人手入として萬柄兵藏金子差遣候も夫與兵衛申付候儀夫身分之ためを存被欺候ものニ御座候寛政五丑年大坂町奉行相伺候西高津新地九町目備前屋嘉右衛門支配借屋金屋大藏同居きん儀繼父宇兵衛吟味筋ニ而入牢致し候節内証之儀又五郎江頼込落着後謝禮之金子相贈り其上右金子別ニきんより用立候姿ニ取扱候儀并右ニ付何方より尋合有之候共用立金高無相違之儀答候様と之又五郎頼之次第聞請都度々々任望偽之請取書認遣候始末不届ニ付輕追放と可相伺候得共一體繼父宇兵衛及難儀其上母之歎を見兼内分ニ而頼入出牢之上心祝之謝禮金相贈り候儀も彼は女之無思慮孝道を存詰候趣是又又五郎より不筋之儀頼申越候得共元主人之儀難及斷任其意ニ候趣ニ相聞候ニ付大坂三郷拂と相伺一座評儀之上親之難儀を不得忍ひ心底故之儀ニも御座候間身分動キ候程之御仕置ニも相當申間敷哉ニ付三十日押込と申上其通相濟候例ニ見合

三十日押込

奇怪異説之類

寛政十一未年八月十三日揚屋入
揚屋入同年九月七日落着

安藤對馬守殿御差圖

根岸肥前守掛

南品川海晏寺門前
家持三彌事
法修院

右之者儀夫大内主膳より醫術傳法受候迎療治頼來候得ハ多分病人之容體も不見受經文讀誦致し病症承り候迄ニ而藥を遣し諸人病氣を容易ニ心得候致し方且加持致し候儀無之候得とも俗人之身分ニ而他より被相頼經文等讀誦致し遣候故奇怪之儀致候段風聞も有之不埒ニ付三十日押込

〔右御咎附〕 右醫業之致方不束ニ而奇怪之取計紛敷一通之不束より品不宜候間三十日押込

越訴之類

文化元子年八月九日入申
同年十一月廿七日落着

牧野備前守御差圖

根岸肥前守掛

本郷三町口
久右衛門店
宗次郎方ニ居候

右之者儀前川玄徳方ニ下女奉公いたし居候節當七月廿八日玄徳娘せき儀石原立意と聊之申争致し候儀ニ付叱りを請彼是聲高ニ申譯致し暇申付候節玄徳儀玄孝江手疵爲負其後同人を檻江入療養并食事等も不爲致差置候趣及承此ものを玄孝儀妾同様ニ召仕候儀も有之旁玄孝成行如何可相成哉迎も右始末ニ而ハ存命之程難計存候ハ、玄徳親類共江も申聞取計方も可有之處無其儀御目付江驅込訴致し候段不埒ニ付五十日押込

〔右御咎附〕 右寛政二成年池田筑後守町奉行動役中伺之上申付候御書院番駒木根大内記組

一柳勘之丞中間六郎兵衛儀一柳勘之丞妻みち儀繼子丑之助を非道ニ取扱家來衣笠十兵衛儀龜末ニ取計其外兩人不束之儀品々相認丑之助を一柳兵部少輔方江連參訴狀差出候處右文言之内みち堀江町二町目利兵衛店龜次郎事重右衛門不義之風聞有之旨申立候儀無証據之儀ニ而不輕儀ニ有之且唐辛五ツ無理爲給候儀は無之處平生非道ニ取計候故見極候儀は無之立聞致し不見請儀迄致治定候趣ニ訴狀相認親類江差出候段不束ニ候得共みち儀丑之助を非道ニ折檻致し十兵衛儀も龜末ニ取扱候段無相違丑之助難儀を見兼候而不取捨置始末無餘儀儀ニ付無構旨申渡候例ニ見合此者儀女之儀と者乍申玄徳暇申渡候節主人江對し彼是聲高ニ申聞候段不埒ニ御座候間五十日押込

博奕之部

博奕打候者之類

享和元酉年十一月十二日揚屋入
同年十二月廿五日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

麻布今井寺町

半七店

鏡五郎妻

同店

なみ

右之者共儀博奕筋之儀前々御法度ニ而近來別而嚴敷御觸も有之處相背當十月中麻布今井寺町つな方ニ而同人一同手合ニ加り五六錢賭めくり博奕兩度〔致〕候段不届ニ付兩人共五十日過怠牢舎

〔右御咎附〕 右隠賣女渡世致し候者も御座候得共廻り筒ニ而三度以上博奕打候もの之御定ニ見合平藏外八人は重き方江附一同中追放富士右衛門常吉は去ル寅年博奕打候もの御咎之儀ニ付被仰渡候御書付ニ見合重敲なみとよ儀は敲ニ當り候女之儀ニ付去ル酉年一座評議之上申上候趣ニ見合兩人共五十日過怠牢舎

密通之部

密通之類

享和二戌年三月四日預
同年五月廿五日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

山王御神領

武州多摩郡

天沼村百姓

久右衛門方ニ居候

し

右之者儀武家奉公致し罷在傍輩權助と密通いたし同人暇出候得共度々忍参り候節密通致し候故權助儀夜中屏を乗越忍入候始末ニ相成候段不埒ニ付主人小出三郎右衛門江引渡心次第可申付

〔右御咎附〕 右御定書ニ他之家來又は町人等下女と密通致し忍入候もの男は江戸拂女は主人心次第可爲致と有之此もの儀主人方暇出候ものニ候得共勤居候内之不届に付右御定をも見合主人小出三郎右衛門江引渡同心次第いたし候様可申達候哉

主從親族等ニ拘リ候者之部

欠落者之類

寛政十一未年七月廿七日落着

太田備中守殿御差圖

根岸肥前守掛

水戸殿家來

男谷忠之允若黨ニ而

致欠落候

毛牧十右衛門母

て

る

外四人

右之者共儀銘々悴并夫共身分難立儀有之出奔いたし候ニ付此者共も立退候様申強而難差留候迎一同出奔いたし銘々身寄又は懇意之者共方ニ忍ひ罷在候儀共女之儀とハ乍申不埒に付一同三十日押込

〔右御咎附〕

右天明六年山村信濃守町奉行動役之節親之上申付候淺草東仲町新右衛門店安

兵衛方ニ居候しま儀増山河内守足輕金森嘉七妻ニ相成去年十月十八日より西紺屋町惣右衛門店友次郎方ニ罷在候内嘉七儀主人入用之由偽取込候品々同中間長助ニ爲持差越品數多怪敷存候ハ、致方も可有之處無其儀嘉七儀屋敷出奔已後も一所ニ罷在右取込候吳服物永續致し安兵衛方江持參候ニ付嘉七一同安兵衛方江罷越條段女之儀と者乍申不埒ニ付三十日押込申付候例ニ見合此者共も三十日押込

巧事并取拵之部

ねたりゆすり之類

寛政十年十二月廿八日揚屋入
寛政十一年三月十一日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

西丸御書院番

淺野佐渡守組

高井新十郎家來

増田金兵衛叔母ニ而

出奔致し候

りん

右之者儀先年小笠原右近將監實家之縁者清眞院方ニ相勤候節右近將監儀保三郎と申實家ニ罷在候内召仕候由ニ而品々不束之儀申立候得共妾と相極候者にも無之其上清眞院方暇出候已後度々過分之合力を受其後も數度小笠原家江門訴いたし又は門前江倒不立去罷在候其節も合力を受重而立入間敷旨之証文差出乍置六年已前寅年駕籠訴いたし候旨申同人辻番所江罷越不立去罷在奉行所江差出ニ相成吟味之上親類共より引取候儀相願候ニ付渡遣候處其後も彼是願出或は重き御役入江筋違之願いたし親類共差留候も不聞入去午六月出奔致し相州邊又は御當地知人共之方立廻り罷在去午十二月廿七日右近將監中屋敷門番所江又候罷越嫡子伊豫守江直訴致し候旨申不立去罷在候儀共輕き身分を幸ニ大家之外聞ニ拘り候儀を見込右體度々及不法候始末ねたり事いたし候同様之致し方武家江對し不届之至リニ付重追放

〔右御仕置附〕右御定書ニ巧事かたり事重キねたり事致し候者御仕置之ケ條ニかたり事之品對 公儀候事敷又は兼而巧候事敷或は人を誘引申合候もの雜物壹兩已上ハ死罪但當座之かたり者手元ニ有之品を盜取候者御仕置同斷と有之此もの儀巧候と申ニも無之一體之

趣意右御定之本文ニハ難引當但書ニ見合候而も手元ニ有之品を盜取候ものも拾兩已上ハ死罪ニ有之然共女之儀ニ而金高ハ拾兩以上ニ候得共的當共難申品輕キ方ニ有之依之先例相糺候處相當之例無之御定書ニ添候例書ニ岡崎町市郎兵衛儀女房すまと相對之上品川宿飯賣奉公ニ出候處すま儀麻布百姓町勘兵衛方江被受出候ニ付商元手金可貫爲メ勘兵衛方江參すま母を育兼候ニ付金子合力可致候無左候ハ、公事合ニ可致抔威し金七兩ねたり取其後同町傳四郎方ニ而酒給庖丁を持あばれ烏目貳百文致紛失候由申掛いたし旁不届ニ付敵之上重追放ニ相成候間前書死罪之御定をも見合一等輕重追放
但りん儀元武家家來之娘ニ候得共父跡斷絶いたし其後甥増田金兵衛方出奔いたし候者之儀ニ付百姓町人之御構場所を以重追放

盜物怪敷品取扱之部

盜物怪敷品と不存取扱候類

享和元酉年十二月四日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

橋本町三丁目

佐吉店

乙次郎

右之者儀店受家主江も不申聞相對之上龜次郎を入夫之積ニ而同居爲致同人盜いたし候儀は不存候得共外より被頼候旨申聞候連衣類帶等質入遣候段不届ニ付所拂
〔右御仕置附〕右は御定書ニ人別帳ニも不加他之者を差置候もの當人并差置候者共所拂と有之候ニ准し所拂

口論打擲疵付之部

武家へ對し及不法候類

享和三亥年二月十四日揚屋入
同年四月十一日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

青山善光寺門前

庄兵衛店清助方ニ居候

右之者儀雲讚方ニ下女奉公相勤候節縱令妾同様ニ召仕候共此者相對之上之儀殊聊之不調法ニ候共主人存寄ニ不叶上は暇差遣可申儀は勿論之儀ニ候處心外ニ候迎雲讚外聞ニ拘り候様致成憤りを晴し可申と一圖ニ存詰元主人江對し惡口雜言および其上仙石越前守居屋敷江參り不立去罷在自分と髪を切彼是聲高ニ雜言申募武家江對し不法之始末女之儀とは申ながら不届ニ付輕追放

〔右御仕置附〕右去ル末年伺之上申渡候高井新十郎家來増田金兵衛叔母ニ而出奔致し候りん儀先年小笠原右近將監實家之縁者清眞院方に相勤候節右近將監儀保三郎と申實家ニ罷在候内召仕候由ニテ品々不束之儀申立候得共妾と相極候者ニも無之其上清眞院方暇出候以後度々過分之合力を請其後も數度小笠原家江門訴致し又は門前江倒不立去罷在其節も合力を請重而立入間敷旨之証文乍差出置六年以前寅年駕訴致し候旨同人辻番所江罷越不立去罷在奉行所江差出ニ成吟味之上親類共より引取之儀相願候ニ付渡遣候處其後も彼是願出或は重キ御役人江筋違之願致し親類共差留候も不聞入去午年六月出奔致し相州邊又は御當地知人共之方立廻り罷在同十二月廿七日右近將監中屋敷門番所江又候罷越嫡子伊豫守江直訴致候旨申不立去罷在候儀共輕キ身分を幸ひに大家之外聞ニ拘候儀を見込右體度

々不法および候始末ねたり事致候同様之いたし方武家江對し不届之至ニ付重追放申付候例ニ見合趣意は同様ニ御座候得共右例之方へ度々之儀一體之始末も品輕御座候間右例より一等輕く輕追放

相對死仕損候類

享和三亥年十二月廿三日溜預

文化元子年四月九日落着

根岸肥前守掛

新吉原角町

次郎右衛門抱遊女

清花

右之者儀兼而馴染居候岩藏儀金子遣ひ込身分難立間相對死可致旨申聞候處此者も遊女奉公難義ニ存其上末々岩藏と夫婦ニ可相成約束致し置候間同人任申ニ相對死申合去亥十二月廿一日夜岩藏持參之短刀を以此者吭江疵付其身も自害仕損し候始末不届ニ付三日晒之上非人手下

〔右御仕置附〕右御定書ニ不儀ニ而相對死いたし候者一方存命ニ候ハ、下手人双方存命ニ候

ハ、三日晒非人手下と有之此者相對死申合候岩藏は相果候得共吟味之上疵ニ而相果候儀ニは無之餘病ニ而相果候段醫師其外申之候間双方存命之もの御定江引當三日晒之上非人手下

等閑又ハ龜忽之部

可糺筋等閑之類

享和三亥年六月十一日落着

牧野備前守殿御差圖

根岸肥前守掛

本所長岡町二丁目

庄之助店

長吉妻

きん

右之者儀同店并近所之者罷越酒給度間住居貸し吳候様申候共夫之留守ニ候上は可相斷儀其上下之者共御法度相背博突いたし差留候をも不聞入候ハ、町役人江も可申聞處無其儀不埒ニ付三十日押込

〔右御咎附〕 右去ル辰年評定所一座江評儀ニ御下ケ被成候森山源五郎相伺候武州幸手宿彌左衛門三笠附いたし候一件之内武州埼玉郡吉羽新田百姓五郎次妻とみ同人悴幸之助妻き

儀五郎次三笠附宿いたし候儀不正之儀と心附差留候後引續三笠附宿いたし候儀見請罷在候段とみ儀は夫之儀ニ候得共差留可申儀ニ有之き儀は幸之助江も猶又可申聞處無其儀兩人共不埒ニ付とみ儀は急度叱りき儀は叱りと申上其通相濟候例ニ見合一旦差留候段は同様ニ御座候得共此もの儀は夫留守中之儀ニ而品不宜候間右例ニ見合きん儀は三十日押込長吉儀は取計方不行届迄之儀ニ付急度叱り

一旦御仕置ニ成候後又ハ吟味中等ニ惡事致し候部

御構者取扱候類

文化二丑年十二月六日落着

青山下野守殿御差圖

根岸肥前守掛

駿府四ツ足町
家持

と

め

右之者儀夫惣助儀平四郎と馴合とよを勾引候始末ニ携候儀ハ無之候得共右惣助ハ所拂ニ相成候者ニ候處同人申ニ隨ひ表向は離縁受候積ニ致し惣助を爲忍置殊ニとよ給金配分之内とは不存平四郎より爲小遣錢四百文貰受候始末不埒ニ付五十日押込

〔右御咎附〕右寛政五年小田切土佐守伺之上申付候淺草聖天横町安五郎店長三郎母きく儀入墨之上江戸拂ニ相成御構場所江立入候辨次妻に相成候ニ付先達而三十日押込ニ相成其節辨次は江戸拾里四方追放ニ相成候ニ付同人ニ相別レ悴長次郎店主ニいたし安五郎罷越在方ニ罷在候處當二月中辨次罷越在方ニ而荷持稼致し候得共給兼候間同店致度旨相頼候迎右御仕置後度々御構場所江立入輕追放中追放ニ相成候儀は不存候共先達而江戸拾里四方追放ニ相成御構場所江立入候儀は乍存同居致し其上家主安五郎相尋候節在方兄ニ而致逗留候旨爲申聞罷〔在〕候段不埒ニ付所拂申付候例ニ見合此者儀は所拂ニ相成候夫を差置候儀ニ而品輕く御座候間五十日押込

女之部

奉行手限

定事并御觸申渡等を背候部

御觸申渡等背候類

安永二巳年四月

牧野大隅守掛

家主旅人宿
小傳馬町三丁目
十兵衛妻

留

ん

右之者夫十兵衛儀旅人宿致渡世去辰二月致類焼候ニ付十兵衛儀普請切組之儀ニ付此者兄武州足立郡領家村百姓忠七方江罷越候留守江同七月七日知人に無之下總國古河町より參候山藤井新九郎と申侍躰之者供之者壹人召連參五郎兵衛町ニ尋候者有之候處不案内ニ而夜中不相知候間一宿爲致候様申ニ付此者出會對談之上止宿爲致暫過新九郎申聞候は右供之者は千住宿より雇參候間相返候旨申ニ付壹人旅人ニ相成宿難致旨相斷候處夜ニ入御當地不案内ニ而難儀致し候間達而止宿之儀頼候ニ付不埒之者ニも有之間敷と存一宿爲致同夜十兵衛儀在方より歸候ニ付右之趣申聞是又慥成者と存致其分罷在翌八日朝五時新九郎此者方ヲ出不立歸候ニ付相調候處右之者雜物品々二階ニ差置行衛不知候間右品持參十兵

衛訴出外子細無之旨申候得共此者儀夫十兵衛留守之節新九郎供之者雇參差返候上は壹人
旅人之儀可相斷處無其儀女之儀とは乍申不行届儀不埒之至ニ付三十日押込

隠賣女之類

安永四年九月

牧野大隅守掛

深川永代寺門前仲町
藤八店
傳八娘

右之者儀深川佃町源藏店源七方ニ而賣女奉公致し病氣養生のため親傳八方江参り居候内
快相成主人方江相歸右躰之奉公難儀ニ存致欠落小普請組元長田越中守支配當時徳山五兵
衛支配猪飼五郎太夫方江参候旨申之執ニも右躰御法度相背隠賣女致し候段不届之至ニ付
三ヶ年之内新吉原町江爲取遣ス

密通之部

密通之類

寛政十一年八月廿一日落着

根岸肥前守掛

鶴町仁兵衛店
勘五郎養女

右之者儀兼次郎は先達而不届有之蔽之上江戸拂又は江戸拾里四方追放ニ相成候ものニ候
處其儀は不存候共兼而密通之上被誘引出同人御構之地ニ一所ニ店持罷有候段不埒ニ付急
度叱り

御仕置有恕之都

自訴之類

寛政三年正月

池田筑後守掛

下谷町二丁目

右之者儀五年以前未年より三郎兵衛抱ニ相成御法度相背隠賣女之稼致し候段不届ニ候得共賣女之勤難儀之旨申立新吉原町會所江駈込同町より召連訴出候間自訴致候も同前之儀ニ付咎之不及沙汰何方へ成共勝手次第可參

主從親族等ニ拘リ候者之部

不實之取計致し候類

安永三年年二月

牧野大隅守掛

市谷七軒町
七五郎店
新五郎妻

右之者儀夫新五郎加役方へ被捕吟味中致病死候ニ付死骸引取可申哉之旨家主七五郎方上

り問合候へ、夫之儀故たとへ貧窮ニ候共如何様ニもいたし引取身分相應ニ片付遣可申處無其儀死骸取捨相願候段人情ニ有之間敷儀不届之至ニ付所拂

巧事并取拵之部

巧事并取拵之類

享和二戌年六月廿一手續預
同年七月廿一日落着

根岸肥前守掛

深川築出新地
久四郎店

右之もの儀夫三平先達而不届有之所拂ニ相成店受人甚右衛門方江同居いたし候砌此者は表向離縁之積町役人江も申偽元宅江住居いたし居三平儀夜中忍ひ候而參候を止宿等爲致候段夫之儀とは乍申不埒ニ付五十日押込

偽取拵相違申立又ハ申掛致し候類

安永五申年八月

牧野大隅守掛

芝横新町喜兵衛店
 千太郎と申立候處
 當時無宿孫七仕切置候
 右喜兵衛方居候

右之者儀孫七方へ仕切置候以後南品川一丁目旅籠屋清七母勢ん方へ預置候處當正月八日
 孫七駈込願致し候間此者も罷出候様申聞候間同人妻之由申立候得共無取上山申渡有之夫
 より孫七はせん方へ参り此者は喜兵衛方へ罷在候處此者惣右衛門方にて賣女爲致候山孫
 七申立欠込願致し遂吟味〔候〕處是迄何方へも奉公濟致し候儀無之食盛又は隠賣女之致勤
 候儀決て無之旨申候得共孫七致欠込候趣意も不存同人任申旨妻之由相違之儀申立候段女
 之儀とは乍申不埒之至ニ付五十日押込

盜賊之部

手元盜之類

享和二戌年五月十二日入牢
 同年九月廿日落着

根岸肥前守掛

深川富川町
 藤助店
 伊之助方ニ居候
 同人妹

む め

右之者儀先達て佐右衛門妻ニ相成候處心底ニ不應由ニて離縁を請其後相詫再縁之儀申入
 候得共佐右衛門承知不致殊ニ後妻をも呼迎へ候旨及承残念ニ存同人へ迷惑可爲致と五月
 九日佐右衛門方へ参り彼是聲高ニ難澁申立騒利同人夫婦共同店內へ参候跡ニて錠前無之
 櫃之内ニ有之南鍔銀八片盜取懐中へ隠置同月十二日迄不立去罷在其上牢内ニて改之節右
 金子取上ニ可相成と着類之縫目等〔江〕隠置候儀共不届ニ付入墨之上百日過怠牢申付

盜物怪品と不存取扱候類

安永元辰年十二月

牧野大隅守掛

池之端七軒町
吉十郎店
源七女房

右之者儀當五月三日相店仁兵衛方ニ居候喜兵衛儀妻所持之品ニ付致質入吳候様申ニ付相違も有之間敷と存出所も不相糺夫源七病中ニ付不申聞源七印形置主判ニて相濟質代錢六百文借受相渡候旨申候得共右躰盜物を致質入遣候段女之儀とは乍申不念之取計不埒之至ニ付三十日押込

口論打擲疵付之部

口論打擲疵付候類

安永四年八月

牧野大隅守掛

芝浜町吉兵衛店
善兵衛女房

右之者儀夫善兵衛并芝新網町家主半三郎へ申合等致し候儀は無之持病之疳癪差發罷在善兵衛不存質物ヲ芝濱松町二丁目清兵衛地借質屋源六方ニて置主名前ニいたし置候儀頻りに心外ニ相成源六へ疵付候儀之旨申候得共夫善兵衛不存質物紛失物ニ有之候共吟味ニ相成候得は相分り候儀ニ候處善兵衛へ無沙汰ニ質置主ニ致候儀を憤源六方へ庖丁持參同人へ所々切付手疵爲負候段不届之至ニ付五十日手鎖

ぶ
ん

狼藉并あばれ候て町所を爲騒候類

享和二戌年五月四日揚屋入
同年六月十九日落着

根岸肥前守掛

神田佐久間町四丁目元地
庄兵衛店
万藏妻

右之者儀夫萬藏源七ニ遺恨有之同人方へ罷越候様子見受差留候得共不聞入駈出し候ニ付

此ものも源七方へ参り見候處萬藏儀棺桶經帷子等持參立願罷在法外之體見受(候)へ、如何様ニも源七方へ相詫可申處萬藏被縛候迎源七井家主八兵衛へ取懸り突退ケ立願候儀共不埒ニ付五十日手鎖

等閑又ハ龜忽之部

可糺筋等閑之類

享和三亥年十二月九日

根岸肥前守掛

飯倉町一丁目

新次郎店

又右衛門妻

右之者儀又右衛門留守之節文吉召仕龜次より預り候小鳥へ同人儀主人方之品持出候儀ニ有之候處得と糺も不致預り其後文吉儀右品預候へ、可訴出處無其儀段不埒ニ付預り置候小鳥は取上急度叱り

捨置間敷儀等閑之類

明和九辰年十月

牧野大隅守掛

芝口新町

平次郎店

惣兵衛妻

右之者儀夫惣兵衛唐更紗賣捌候儀ニ付遂吟味候處右更紗致所持候を不見請箔屋町小三郎店與三郎相頼賣拂候をも曾て不存并住所不知利兵衛儀此者方差置候ものには無之住所不存旨申候得共右へ新材木町長藏店宗兵衛方紛失物ニ有之當七月中惣兵衛罷出、不立歸候へ家主へ早速其段可申聞處無其儀呼出し有之節ニ至申聞候段女之儀とは乍申等閑之仕方不埒ニ付三十日押込

幼年之部

奉行手限

盜賊之部

戸明盜之部

寛政十一未年十二月七日預
同十二年正月廿五日落着

根岸肥前守掛

麻布谷町

三右衛門店

與助弟子

編次郎

右之者儀不斗惡心出去十二月二日主人留守之節錠前無之重筆筒引出しニ入有之候金三兩一分財布之儘取出し隠置候處迎も後日ニ可相顯と後悔致し翌三日親三四郎へ申聞右金子主人方へ不殘相返し詫相濟主人よりも有免之儀相願候得共右始末幼年とハ乍申不届ニ付百日過怠半

盜物怪敷品取扱之部

盜物怪敷品と不存取扱候類

安永五申年十月

牧野大隅守掛

新吉原揚屋町

平八店

平七召仕

徳次郎

右之者儀盜物と申儀曾て不存尤禮物等貰受候儀無之由申候得共去未六月以來主人平七方へ折々遊ニ參遊女若波を買揚致一宿候知人當時無宿與兵衛儀所持之品之由申聞任相頼候得と出所も不相糺主人平七方へも不申聞同所江戸町貳町目十兵衛店質屋彦右衛門方へ持參同人妻とよへ致對談盜物之本綿合羽紺小紋單羽織貳品無印にて致質入代金錢都合壹分と六百五拾文借受遣候段不埒ニ候〔得〕共幼年者之儀ニ付急度叱り置

座頭之部

老中差圖

盜物怪敷品取扱候部

盜物怪敷品と乍心付取扱候類

寛政十二年七月二日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

横山町壹町目

長右衛門店

盲人

繁一事

繁 吉

右之者儀無宿富藏清助より衣類品々買取又ハ質入或ハ賣拂遣金壹分貳朱其外小遣錢等度々貴請候儀最初ハ盜致し候物トハ不存候得共其後宅にて品物賣捌候節怪敷儀ト乍心付其分ニ致置候始末不届ニ付敲之上江戸拂可申付處盲人之儀ニ付相當之仕置可申付旨申達惣錄へ引渡遣ス

〔右御仕置附〕右御定書ニ添候例書之内淺草誓願寺門前權七儀盜物と不存由申之候得共住所も無之群右衛門儀衣類品々持參質ニ置吳候様申ニ付商元手可質爲メ出所も不糺質置主ニ成質代金之内壹分三百文貴請候段不届ニ付敲之上所拂申付候例ニ見合此者儀ハ最初質入或ハ賣拂遣金錢貴候節ハ盜賊共盜物共不存候得共追而怪敷儀と乍心付其分ニ致置候段例

よりハ品不宜候間敲之上江戸拂と可相伺處盲人之儀ニ付相當之仕置可申付旨申達惣錄へ引渡遣ス

浪人之部

老中差圖

掟事并御觸申渡等を背候部

人別不加他之者差置候類

享和元酉年五月晦日入牢
同年八月二日落着

安藤對馬守殿御差圖

根根肥前守掛

庄七店
浪人

須山和太夫

右之者儀禪梁を人別帳へも不差加去々未年より別宅ニ差置其上諸宗之僧侶佛事其外爲建立江戸市中ニ借地借宅之儀ニ付御觸も有之處徳芳を右別宅へ逗留爲致置加持祈禱爲致殊

右致方本山之掟を背紛敷儀ニ有之處其儀も不心付世話いたし遣し候儀共旁不届ニ付所拂
〔右御仕置附〕右は外不埒も有之候得共人別ニも不加他之者差置候段重も之不届ニ付右御定
ニ見合所拂

不筋之世話致し候類

文化二丑年八月九日落着

青山下野守殿御差圖

根岸肥前守掛

湯島六町目

利助店

常八方ニ居候浪人

永井武太夫

右之者儀兼而知人蒲生源左衛門病氣ニ而右京亮方暇出候節此者引取神田明神下同朋町清
次郎店借請差置候得共療養手當等差支候ニ付源左衛門儀元主人右京亮方へ用立金三拾七
兩有之候間催促いたし吳候様相頼候ニ付懸合之上追々ニ拾兩米壹俵請取遣し其後此もの
儀も主人方暇出源左衛門と同居いたし居候處店賃滞店立ニ逢兩人共店請人へ被引取候得

共右請人方ニ懸り居候も氣之毒ニ存候迎源左衛門任頼同人を駕籠ニ乗セ右京亮屋敷へ罷
越右殘金濟方いたし候共兩人を長屋内ニ差置候共致し吳候様彼是難澁申日數七日之内不
立去罷在候段不届ニ付江戸拂

〔右御仕置附〕右寛政三亥年初鹿野河内守町奉行之節伺之上申付候牛込水道町彌右衛門店俗
醫師堀尾善次郎儀岡崎全八郎并漆作次右衛門より被頼同人主人由良新六郎へ用立金之引
當米催促ニ罷越候節右兩人は續合無之者ニ候得共聞受宜ク間敷と親類之由申偽吉田三郎
兵衛へ引合其後罷越候節は佐次右衛門取計故是迄新六郎始一同取續乍罷在引當米不相渡
儀は不埒之儀と存候迎答之品ニ寄可及双傷旨對武家へ彼是不法成儀を申及催促候段酒狂
とは乍申不埒ニ付江戸拂申付候例ニ見合此者儀ハ格別不法之趣等は無之候得共蒲生源左
衛門俱々日數七日之内不立去罷在候儀ニも御座候間右例同様江戸拂

奇怪異説之類

明和四亥年八月廿一日

松平右近將監殿御差圖

依田豊前守掛

朱書

御目付松平庄九郎 立合

永澤町安兵衛店

浪人

山縣大貳

右之者儀常々弟子共へ渡世又へ藝術之勵ニも候間門弟其外入魂致候得ハ兵亂或ハ變事有之節何れ之用ニも相立事ニ寄立身等可致旨申聞候段兵亂を好候道理ニ相當リ且又甲府御城附御武器員數之儀覺候ニ任セ申散シ爰惑星心宿へ掛り候右ハ兵亂之萌ニ候由古書ニ有之候處其後上州邊百姓共騒立候間少しハ其趣有之事之由相咄當時者 禁裏行幸も無之とらハれ同前之由致雜談堂上方之古實ニ背ケ候趣草紙ニ認或ハ兵學之講釋に付地利へ不引當候て難相分品ハ甲州其外及見聞候國々之地利地名城々へ引當テ御要害之場所を譬ニ取用講釋致候儀共旁恐多不敬之至不届至極ニ付死罪

駕籠訴之類

明和四年十一月廿五日

松平右京太夫殿御差圖

依田豊前守掛

無宿浪人

梶山彦八

右之者儀病氣ニ付淺草遍立寺門前伊兵衛店伯父源藏事村上道秀方へ無斷罷出先年大伯母妙典申聞候儀を不斗存付松平之本姓を再興致度願ニ罷出候儀右妙典ハ先年相果殊ニ幼年之節承候事故取締り候儀ニも無之處訴狀認松平周防守殿門番所へ差出候處取上無之候ニ付其以後板倉佐渡守殿へ駕籠訴致候段不埒ニ候得共不揃躰ニて右躰ニ致候ニ有之間他行等致間敷旨申渡右道秀押込ニ付家主伊兵衛定行事小八へ渡遣ス

巧事并取拵之部

賈金拵又ハ取扱候類

文化二丑年二月廿九日落着

青山下野守殿御差圖

根岸肥前守掛

小普請方手代

岩本辨藏地面内ニ罷在候
岩垂勇八郎方同居仕候
同人父
浪人

岩垂隼多

右之者儀貸出し候金子差支候逆悪心出庄兵衛事次助より借請候後藤包貳百兩之内百兩封を解金子を取出し先年爲替金之内へ請取候銅鉛ニて小判之形ニ拵候品を入替如元封し作兵衛を頼半兵衛へ預ケ金貳百兩借請都合三百兩貸渡し返済有之節貳百兩を次助へ相返し錢百兩半兵衛へは不相返外借金の方へ相返し又は雜用等ニ遣捨候始末不届至極ニ付存命ニ候ハ、死罪

〔右御仕置附〕右御定書ニ似金銀拵候もの引廻し之上礫と有之此者儀は貸付金ニ差支不斗存出し兼て所持之銅鉛を以小判之形ニ拵候品を百兩包之金子と入替取拵右を預ケ金子借受候ものニて似金銀拵又は遣ひ候者とも違ひ右御定へは難見合寛政五丑年小田切土佐守伺之上申付候松村町元清兵衛店ニ罷在候當時上野町代地利右衛門店清兵衛事三右衛門儀鉛ニて貳朱判之形ニ拵候品拾取候逆渡世之吳服物買出候節正金ニ取交餘慶ニ相見存付宜様可致と猶亦先達て死罪申付候木挽町二丁目太郎兵衛店作兵衛相頼銅を小判之形ニ切抜貰

渡世先持步行其上困窮迫候逆作兵衛と手筈申合吳服屋より反物取寄途中ニて一旦正金を紙ニ包手附ニ相渡置猶又小判并貳朱之形ニ拵候銅鉛を紙ニ包引替相渡此もの一人ニても同様之手續ニて膳碗等街取賣捌都合代金六兩壹分貳朱三百文餘之内三分と反物貳疋は作兵衛へ配分致し其餘之金錢を雜用等〔ニ〕遣捨候段巧成致方重々不届至極ニ付死罪申付候例ニ見合存命ニ候ハ、死罪

巧事并取拵之類

文化元子年四月七日入牢
同年七月九日落着

牧野備前守御差圖

根岸肥前守掛

小普請組

渡邊平十郎支配

佐久間吉五郎元家來ニて

當時同人長屋内ニ罷在候

浪人

針谷太兵衛事

針谷忠右衛門

右之者儀去々戊年七月中惣兵衛儀主人勝手向さし支庄兵衛より金子借請候節郷印證文へ惣兵衛有合之印形押用候趣等ハ不存候得共同人頼ニまかせ如何之儀と心付ながら銀之助知行所名前長藏と名乗り庄兵衛清七へ兩度迄逢對いたし候段武家方勤中之儀ニて別て不届ニ付江戸拂

〔右御仕置附〕右寛政七卯年私御勘定奉行之節伺之上申付候小石川御掃除町平八店浪人原田一郎儀御代官所御貸附金村方拜借之儀地頭ニて聞濟無之難儀いたし候間地頭家來と申立罷出吳候様出澤郡司右衛門并右村方之もの一同強て相頼候逆鈴木忠右衛門と名前を偽御代官所へ罷出名寄帳書拔へ奥書いたし右名前之下へ仙藏所持之印形を押村方之ものへ御貸附金爲致拜借金貳分貫請又ハ借受候始末不届ニ付輕追放申付候例ニ見合此もの儀ハ武家方勤中ニハ候得共 公儀御貸付共譯違禮金等貫請候儀も無之一躰之始末品輕御座候間一等輕く江戸拂

巧事ニ馴合候類

文化二丑年九月五日落着

土井大炊頭殿御差圖

根岸肥前守掛

靈岸島長崎町壹丁目

忠右衛門店

浪人

山下飯之助方ニ居候

同人弟子

三枝忠兵衛

右之者儀山下飯之助は町方住居浪人之身分ニて鑓長柄等玄關ニ鏝置實事論會之學堂と申看板を差出し心學ニ似寄候新規異流を以亂心候もの放蕩者等教諭致し相直候由申觸し愚昧之ものを爲惑弟子壹人より雜用代金貳分宛請取多人數宿爲致候ものニ有之處隨身之上俱々世話致し遺殊ニ宿致し居候彦吉身分之儀ニ付飯之助と喜右衛門申争候節同人は老年者ニ有之處手荒ニ取扱致し候儀共旁不届に付江戸拂

〔右御仕置附〕右去ル戊午伺之上申付候武州秩父郡藤倉村野栗權現神主ニて芝赤羽根橋際御作事方御被官荒川金三郎拜領屋敷内ニ罷在候富田加賀一件之内同人弟子加藤志津摩并右加賀召仕侍杉山増右衛門儀加賀方へ紛失物其外占ひ并祈禱を頼ニ罷越候者有之節玄關ニて先方住居方様子紛失致し候始末委細ニ承札加賀ニ陰聞爲致又は先方之居宅近邊へ罷越

風聞等承糺加賀へ申聞同人儀右承糺候趣を以占ひ候躰ニ致し或は祈禱之寄附ニて相知候趣ニ致し成候段疑敷儀と乍存其通取計人を迷し候始末其上加賀儀在所〔ニ〕おゐて通塞申付有之候處御當地忍ひ罷在加持祈禱致し候をも其分ニ致し候段主人又は師匠之儀とは乍申不届ニ付兩人共江戸拂申付候例ニ見合格別輕重も有之間敷尤忠兵衛儀は喜右衛門を手荒ニ取扱候不届も御座候得共別段御仕置重〔ツカ〕候程之儀ニも無御座候間右例同様江戸拂

似セ役之類

文化二止年四月十八日落着

青山下野守殿御差圖

根岸肥前守掛

九條殿家來

佐々木丹後守用役

上田藤馬方ニ居候

浪人

上田八郎

右之者兼て懇意ニいたし候堀左門事須藤左門儀同人元主人渡邊鎌五郎方より可請取扶持

代并立替金等之儀願吳候様頼ニ任親類ニ成録五郎屋敷へ罷越浪人と申候てハ取用宜ケ間敷元立花出雲守分家立花斧太郎方を相勤候儀も有之間重キ御役人之家來と申掛合候ハ、早速可相片付と當時出雲守屋敷ニ相勤居候山村文藏と偽名乘當正月中旬敷度罷越彼是不埒之儀を申及催促候始末不届ニ付中追放

〔右御仕置附〕右御定書ニ重キ御役人之家來と偽かたり致し候者死罪と有之處此者儀は兼て懇意ニ致し候堀左門事須藤左門ニ被頼同人元主人屋敷へ罷越左門勤中之扶持米代金又は立替置候金子請取度儀相願候節聞請宜敷様致度立花出雲守家來山村文藏と名乗候者ニてかたり等之趣意無御坐前書御定ニ難引當寛政五丑年小田切土佐守伺之上申付候本所松坂町一丁目勝右衛門店浪人吉岡城左衛門儀貧窮ニて暮兼候ニ付御勘定川崎市三郎より合力可請と御勘定奉行佐橋長門守方へ奉公濟いたし候筈ニ候趣ニ申僞候ハ、支配向之儀故存寄通合力致し吳可申と存同人用役金森彌次右衛門は縁家ニて吹擧を以長門守方へ被抱候筈之旨跡形も無之儀を口上書ニ致し申込候得とも右始末相顯可申と彌次右衛門方へ罷越市三郎より此もの噂有之候ハ、長門守ニ被雇居候趣ニ取合吳候様相頼候處被捕押合力は不得請候得共長門守御役柄ニも有之處右躰申僞市三郎かたへ合力申掛候段旁不届ニ付江戸拾里四方追放申付候例ニ見合候てハ格別品不宜候間中追放

盜賊之部

締リ之厚薄度數等ニ寄御仕置輕重有之候類

享和二年九月十五日入牢
同年十一月廿七日落着

牧野備前守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿浪人 古川 九十九

右之者儀武家屋敷之塀を乗越這入藏之戸錠前を押外し長持之錠を捻切内ニ入有之拵附刀脇差類并掛もの香爐盆石等物數十品盜取右之内香爐者途中へ取落拵付刀脇差銀拵太刀之縁鐔等者取放知人之名前を偽有合判を押證人ニ致し賣拂又ハ人を頼買入致し或ハ通り古鐵買へ賣拂代金錢遺捨相殘品々ハ身分所持之品又ハ被頼候品之由偽頼預置候始末不届之至其上當十月中相溜之者申合溜拔出可申旨根本板を損さし候段傍不届ニ付死罪〔右御仕置附〕右相溜之者申合溜を拔出可申と根本板を損し候不届も御座候得共牢拔出候も

の本罪相當より一等重く可申付一等重御仕置ハ遠島以下之御定ニ御座候間家藏へ忍入候盜賊之本罪ニて死罪

盜物怪敷品取扱之部

盜物と乍心付取扱候類

享和元酉年十一月十六日入牢
同年〔十〕二月廿一日落着

戸田采女正御差圖

根岸肥前守掛

元飯田町
喜太郎店
浪人

桃園平右衛門

右之者儀當八月善次郎持參致質入之儀相頼候女衣類帶ハ盜物ニ有之善次郎身分不相應之品ニて出入屋敷より被頼候品之由申候共怪敷儀と乍存禮金可差越旨善次郎申ニ泥ミ置主ニ成質入致し遺世話料三分貰請候段不届ニ付敲之上所拂

口論打擲疵付之部

人殺之類

文化二丑年二月十一日落着

牧野備前守殿御差圖

根岸肥前守掛

福島町
權兵衛店
浪人

大 高 仁 助

右同人
養子

大 高 巖

右仁助儀口入金返濟之儀ニ付武家屋敷へ罷越候へ、申談方も可有之處加藤手卷と爭論之上手卷及過言可立掛躰ニ候迎押倒し乗掛候故忤儀儀側ニ有之脇差を以手卷を及殺害候始末ニ相成候段不届ニ付中追放

右巖儀口入金催促之儀ニ付親仁助儀加藤手卷取計を憤手卷方へ罷越候を氣遣敷存跡より罷越仁助儀手卷と及爭論同人を押臥候へ、如何様ニも致し引分可申處老年病身之親故相叶間敷と存危難難見捨取昇候迎仁助側差置候脇差を以手卷を及殺害候始末不届ニ付下手人

〔右御仕置例〕右口入致し置候金子濟方無之故武家屋敷へ罷越及不法候者ニて去ル午年伺之上申付候大傳馬町壹丁目半七店平兵衛儀阿部播摩守先々代之節兄清兵衛用立置候金子證文讓請元利千貳百貳拾壹兩餘之滞ニ相成先年濟方之儀願出於評定所裁許を請切金ニ相成追々ニ金五百七十七兩三分請取候處去々己年相對濟被仰出候後同年十二月分迄は月々金五兩宛請取來候得共殘金六百四拾三兩壹分餘相滯度々催促致し候得共取敢無之一通りニては迎も返濟有之間敷と存込願書認當二月七日途中ニて播磨守駕籠へ附相願其後も同人内玄關へ罷越身分をも不願直ニ播摩守へ可相願旨申取敢候もの無之迎廊下通三十間程住居之方へ無案内も立入同十四日も猶又内玄關へ罷越願之趣取次吳候様聲高ニ申罵殘金不請取内は難立歸旨ニて翌十五日迄罷在及詰催促候段武家へ對し旁法外之至不届ニ付重追放申付候例ニ見合此者儀は詰催促等致し候儀は無之候得共關但馬守家來加藤手卷小屋へ罷越同人取計方も不届候へ、如何様ニも申談方可有之處申争候上手卷を押臥候故忤儀儀

此もの危難難見捨候迎脇差を以手巻を及殺害候始末ニも相成候段畢竟此者不埒より事起
り候儀ニ候得共前書例ニ見合候ては品輕く御坐候間中追放
〔右御仕置附〕右は父大高仁助儀加藤手巻と申争同人を押臥罷在候を見請候へ、如何様ニも
取鎮方も可有之處無其儀老年之父危難難見捨候迎脇差を以手巻を及殺害候段最初之始末
外ニ見留候ものも無之危忽之仕方ニて手巻相果候上は人を殺候者之御定ニて下手人

等閑又ハ危忽之部

可糺筋等閑之類

享和三亥年閏正月廿七日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

深川森下町

清左衛門店

浪人

櫻井庄兵衛

右之者儀小林源左衛門は丸山又左衛門と申先達て三枝修理方相勤候節傍輩渡邊又次郎と

申者を及殺害出奔いたし候ものニ有之處其儀は不存候共同國ものニて懇意ニいたし候迎
得と様子も不相糺主人方へ奉公濟爲致候段不埒ニ付三十日押込
〔右御答附〕右去成年伺之上申付候小普請組舟越駿河守支配有馬一學家來用役小山彌八郎
儀主人方中小性井上鐵藏儀は先達て不届有之江戸拂ニ相成候ものニ有之段吟味之上承驚
入候旨申之候得共得と身元も不相糺右躰之もの主人方へ召抱候段用役相勤候身分ニて不
行届取計不埒ニ付三十日押込と相伺五十日押込と御差圖有之候例ニ准し不届者身元不糺
候段は同様之儀ニ付三十日押込

浪人之部

奉行手限

掟事并御觸申渡等を背候部

不筋之世話致し候類

安永八亥年六月

牧野大隅守掛

神田久右衛門町藏地

善藏店

浪人 黒澤半右衛門

右之者儀一旦御先手組同心相勤病氣に付御暇相願當時浪人にて町宅致し罷在御藏前札差共方へ立入武家借用金押而年賦俵向等ニ致對談又者藏宿引替之世話等致し武家方より爲祝儀目錄等貰受夫而已渡世之様ニいたし罷在候段浪人之身分にて別而不届之至ニ付家財取上所拂

巧事并取拵之部

巧事并取拵之類

享和元酉年四月十六日入掌
同年六月二日落着

根岸肥前守掛

大傳馬町一丁目
三枝平左衛門

右之者儀山田幸七妻いそ家出いたし候は新兵衛誘引出候儀ニも可有之哉と幸七相疑候旨

ニて右取扱之儀常右衛門より相頼候ニ付禮金可貰請心底ニて右いそニ似寄候女永藏方又は千住宿旅籠屋ニ居候杯無跡形儀を申右尋方之入用掛候由を申幸七より金壹分偽り取其上新兵衛は盜忍事有之様ニ取拵加役方組廻り之者へ申聞爲相尋候儀共旁不届ニ付江戸拾里四方追放申付之

似「セ」役之類

安永五申年六月

牧野大隅守掛

無宿浪人 松倉多惣次

右之者儀越後國頸城郡松之木村勘右衛門悴ニて姉ちな家出致し候間行衛爲尋去ル己年四月御當地へ出武家方侍奉公致し候處去末三月中出立致し上州坂東宿三郎左衛門方ニてちな見當候故此もの姉ニて欠落者ニ付相渡候様申聞候處右は信州追分宿又四郎請人ニて抱候間難渡旨申ニ付追分宿へ参り相尋候處右名前之者無之在所へ立歸町方役人之由偽又四郎を尋住所相知候へ、ちなを取戻可申と存帶刀致し罷出宿々ニて曲淵甲斐守組松倉多惣

次と名乗御用ニ候間宿申付候様偽申開旅籠屋ニ致一宿木錢米代相拂北御番所内松倉多惣次宛名之右代錢請取印形之書付取之上州邊其外十六ヶ宿問屋又は村役人方へ罷越北御番所組之由偽宿申付爲差儀ニも無之儀を事六ヶ敷申開誤證人等爲差出尤金錢等かたり取候儀決而無之由申候得とも右舛似〔七〕役致し上州倉賀野宿ニて當組之者ニ被捕候段不届之至ニ付輕追放

驅込訴致候類

享和元四年五月七日手領預
同年同月二十九日落着

根岸肥前守掛

麻布新町

十兵衛店

平次郎方ニ居候

浪人

松本吉右衛門

右之者儀懇合喜兵衛より金壹兩二分借請返濟滞候得共猶又差支之儀有之ニ付同人へ無心

申掛々候處承知不致却而最初滞之方催促を請其上此者身持不宜趣ニ喜兵衛申成候様及承彼是心外ニ存酒狂之紛同人宅ニて度々博奕相催候旨跡形も無之儀を申立驅込訴いたし殊ニ預ケ中一旦逃去候始末等旁不届ニ付江戸拂

偽取拵相違申立又ハ申掛致し候類

安永四年閏十二月

牧野大隅守掛

飯倉的場屋敷

家持孫八伴

浪人

鈴木與市郎

右之者儀親孫八受人ニて御小性組番頭酒井對馬守方ニ近習相勤居候節當五月廿日此者并傍輩長屋喜兵衛兩人主人居間次ニ泊番致し候處同所ニ有之刀掛ニ掛置候刀二腰挾箱ニ入候衣類品々紛失之儀ニ付怪敷相聞候間召捕遂吟味候處盜致し候儀曾而無之旨申立再應吟味ニ逢右品盜取先達而傍輩ニ相成候中奥御番土岐半之亟下屋敷守岡山太右衛門伴岡山小八へ相渡賣捌候由申之同人呼出し吟味之上紛失物不存由申立猶又尋を受母方叔父芝濱松

町貳町目傳兵衛店半兵衛へ品相渡候段申ニ付半兵衛召出相尋候處是又同様申立右紛失物有之夜傍輩小山清次郎他出致し翌朝歸候間右之者仕業ニ可有之哉此者惡事不致尤馴合候儀決而無之旨申立候得共右體紛失物吟味ニ付當座之吟味を可廻ため三人迄重き申掛いたし殊に半兵衛儀ハ叔父之儀ニ有之別而不埒至極ニ付江戸拂

盗物怪敷品取扱之部

盗もの怪敷品と不存取扱候類

安永七戌年十二月

牧野大隅守掛

本所松坂町二丁目

傳兵衛店

利兵衛方ニ居候

浪人

野 中 年 藏

右之者儀當七月十四日當時無宿浪人吉田友吉ニ被相頼本所松坂町二丁目惣兵衛店政八ヲ相頼致質入遣候三品は紛失物ニ有之處右躰之品とは一向不心付質入相頼遣尤禮物等責請

候儀無之旨申候得共友七任相頼得と出所も不相糺右躰盗物を政八相頼致質入遣候段不埒之至ニ付三十日押込

口論打擲疵付之部

口論打擲疵付候類

天明七未年六月

山村信濃守掛

當時無宿浪人

三好彌右衛門

右之者儀去午十一月中武家方相勤候砌所持之拾羽織傍輩佐竹次郎家來渡邊善藏へ預ケ鳥目借受候處屋敷暇出候ニ付同人留守宅へ參善藏使之由口上取拵申開右羽織并錢三百文語取逃去其後庄八見世ニて汗粉餅調給持合之鳥目無之右代錢貸吳候様申候處知人ニも無之故貸候儀難成旨申開候ハ、難澁申帶候刀ヲ拔庄八へ所々爲手負候段不届ニ付入墨之上敵

狼藉あばれ候て町所を爲騒候類

安永八亥年四月

牧野大隅守掛

南塗師町
新助店

近藤 周 劔

右之者儀醫業并竹之内流劔術指南を渡世ニ致し罷在去戌十二月劔術稽古所補理同月十六日稽古始致し候ニ付前日十五日暮六時過此方組同心小川久兵衛方へ罷越右稽古初之節参り吳候様相頼候得共當番ニて難参由相斷同人方ニて酒被振舞同夜五時前ニ相成酒ニ給酔右之儀を申出是非共参り吳候様再應申聞酒給罷在候故久兵衛儀用事有之旨申宿を罷出候處長坐致し候故面倒ニ存可相返と存久兵衛外シ候儀と察酒狂之紛頻ニ心外ニ相成候迎客を差置外出いたし候段不埒之由聲高ニ乍申側ニ有之火鉢其外家財等打散刀を拔立噪候始末不届之至ニ付江戸拂

臆し候類

安永四年閏十二月

牧野大隅守掛

本芝入横町

喜右衛門店

六番組人宿

奥助寄子浪人

奥村 庄平

右之者儀當六月十一日夜五ツ時頃南傳馬町天王へ致参詣候節京橋居酒屋ニて酒調給居候處元傍輩佐兵衛町久右衛門店五番組人宿平右衛門寄子浪人大林幸七立寄俱々酒給兩人連立天王へ参詣致し近邊立廻り候途中ニて幸七儀町人躰之ものへ突當り咎候より及口論臨差を拔右之者へ二ヶ所迄切付逃去候處幸七儀上横町ニて被捕町内ニ留置訴出吟味之上右疵受候ものは川瀬石町佐兵衛店五郎兵衛悴權五郎と申者之由承り候旨申候得共幸七酒ニ給酔及口論候ハ、如何様ニも取鎖候様可致處無其儀殊ニ幸七脇差を拔爲手負候節其分ニ致し罷在同人被捕候を見受逃去候儀共輕も帶刀致し候身分ニて臆し候仕方不届之至ニ付以來武家奉公構五十日押込

等閑又ハ龜忽之部

不念龜忽又ハ心得違之類

安永二巳年十月

牧野大隅守掛

御大工頭支配

御被官吉本嘉右衛門

地借浪人馬醫

菊地宗太夫

右之者儀妻きよと松平讃岐守家來澤村彌六致密會候を見届候故不得止事彌六ヲ討留可申
と存候處逃去候故きよヲ致殺害候由申候得共きよを臺所ニて討留候ハ、其儘其場所ニ差
置見分受可申處無其儀殊ニ地主吉本嘉右衛門も其儘差置候様申聞候處三疊半之座敷へ死
體を引移置候段不埒ニ付急度叱

盜賊之部

老中差圖

掟事并御觸申渡等を背候部

徒黨之類

天明七未年十二月廿七日

牧野備後守殿御差圖

山村信濃守掛

無宿

半兵衛

右之者儀徒黨ケ間敷儀致間敷旨度々御觸も有之處當五月廿一日淺草御藏前札差共居室多
人數打壞及騒動候場所へ罷越右人數ニ加り酒屋ニて銅臺之蓋盜取往還ニ落散有之候撞木
を拾ひ取大勢之者共先へ立叩引連歩行札差并米屋共居室建具諸道具等家並ニ打壞見世ニ
有之米穀俵切解往還へ取散及狼藉候段御府内と申不恐 公儀仕方不届ニ付遠島

門訴之類

享和二戌年八月九日溜預

同年十月廿七日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

當時無宿

良悦事

入

白 林

右之者儀盜致し候依科入墨重敲御仕置ニ相成候後相半致し候慈門ニ行逢同人儀は敲之上
 重追放御仕置ニ相成候ものニ候處其儀は不存候得共同人世話ニて店借受其後此もの借用
 金貳分貳朱餘慈門より立替濟し貫右返濟差支候節慈門押て申勤候連妻いとを食賣奉公ニ
 差出候積ニて離縁狀相渡候處慈門より右給金不相渡儀ニ付及口論店內を爲騷候ニ付店立
 ニ逢無宿ニ成慈門取計心外ニ存候ハ、致し方も可有之處一旦御仕置ニ相成候身分故願出
 候儀も難致と存奉行所門前へ兩度迄捨訴致し候段不埒ニ付急度叱り之上身寄之者へ引渡
 遣

〔右御咎附〕 右慈門ニ被欺候段吟味之上無相違捨訴狀之趣も申掛ケ等致し候儀ニは無之慈
 門不届之始末有體認候儀ニて住所を定願出候得は子細も無御座候處御役所前へ捨訴致し
 候不埒迄ニ付急度叱置身寄之者へ引渡

博奕之部

博奕打候者之類

寛政九巳年十月九日入牢

同十年十一月晦日

同十一年未年四月十一日落着

安藤對馬守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿

長 吉

右之者儀所々野田原地ニて廻り筒簍博奕數度致し候段不届ニ候得共於在方無宿とも品々
 惡事致し候趣相聞捕方之もの廻村有之由承自訴致し候儀ニ付江戸拾里四方追放
 〔右御仕置附〕 右寛政八辰年小田切土佐守伺之上申付候佐兵衛町甚兵衛店五番組人宿佐兵衛
 寄子源七儀御法度相背松平土佐守中間部屋頭半次外七人手合ニて貳三拾錢賭之廻り筒簍
 博奕數度致し候段不届〔ニ〕候得共自訴致し候儀ニ付江戸拾里四方追放申付候例ニ見合江戸
 拾里四方追放

密通之部

密通之者を殺害致し候類

安永二巳年十二月廿九日

板倉佐渡守殿御差圖

太田播磨守掛

無宿

久次

右之者儀密夫要七を及殺害候段は無相違外ニ疑敷儀も不相聞候得共無宿之身分にて脇差を帶徘徊致し候段不埒ニ付脇差取上ケ門前拂

御仕置宥恕之部

御赦

寶曆三四年八月四日

堀田相模守殿御差圖

山田伊豆守掛

無宿

庄助

右之者儀居酒屋藤助方にて毛氈并木綿日除之幕盜取其後本芝村木町番屋ニ錠をろし有之候處可致盜と存右錠之坪を抜放内へ入候段重々不届至極ニ付死罪可申付者ニ候得共今度日光 御宮 正遷宮之御赦門前拂

巧事并取拵之部

似役之類

寛政十二申年二月十九日
同年閏四月廿七日落着

安藤對馬守殿御差圖

根岸肥前守掛

上總無宿
久兵衛事

富吉

右之者儀不届有之江戸拂御仕置ニ成房州邊へ罷越候處難給續候迎同國井上總邊立廻り江戸表役人へ附添参り候趣ニ致成無賃之人馬爲差出其上止宿不致積之村々よりハ錢都合貳

貫文貪取不殘遺捨又は大谷村清五郎を捕縛似役同様之始末加役方ニて吟味之節右惡事ハ
 押隠野田博突致し候趣計及白狀中追放相成候儀とも不届ニ付遠島
 〔右御仕置附〕右江戸拂ニ相成候後之惡事ニ候得とも在方ニて之儀ニ付御構之地へ立入惡事
 致候者之御定へは難引當去ル午年村上肥後守町方勤役之節伺之上申付候非人頭松右衛門
 手下武州荏原郡白金村小屋頭喜兵衛儀兼て知人清次郎ニ出會候處久太郎と申ものニ遣恨
 有之間同人を捕吳候へ、清次郎跡より參詫遣候躰ニいたし金子爲差出配分可致旨同意致
 し久太郎を捕自身番屋へ連參此者池田雅次郎組手先之者と取拵申立芋繩ニて縛隠賣女渡
 世いたし候儀可有之旨申掛十手ニて打擲いたし金子ハ不得取候得共右始末非人之身分ニ
 て別て不届ニ付遠島申付候例ニ見合此もの儀ハ非人ニハ無之候得共江戸拂ニ相成候身分
 ニて役人手先之様申偽無賃之人馬爲差出又ハ村々より都合錢貳貫文貪取或ハ百姓清五郎
 へ繩を掛け候始末等に見競輕重も有御座間敷哉ニ付遠島

ねたりゆすり之類

寛政十一未年十月八日入牢

同年十一月五日落着

松平伊豆守殿御圖

根岸肥前守掛

元石谷市右衛門組御徒

荒木留五郎事

當時無宿

三 右 衛 門

右之者儀先年輕も御奉公相勤候身分ニて御暇相願候後町人ニ成商等致し元手金ニ差支候
 逆從弟杉山藤左衛門方へ合力之儀申込候處義絶届致候旨にて面會も相斷候間知人關口喜
 左衛門方ニて兩度迄合力貰請候得共難取續無宿ニ成猶又義絶受候藤左衛門より押て合力
 可請と寺澤小左衛門方へ罷越取計之儀相頼候處難成儀之旨利害申聞候をも不聞入先達て
 藤左衛門義絶致し候譯も相糺吳候様難澁申合力金ねたり掛候始末不届ニ付江戸拂
 〔右御仕置附〕右寛政七卯年池田筑後守町奉行之節伺之上申付候京橋柳町彦八店四番組人宿
 平八寄子文次郎儀身持放埒ニ付親類共義絶致し弟松前若狭守家來河合熊五郎儀も通路致
 間敷旨主人より申付有之儀乍存居小遺錢ニ差支熊五郎方ニて無心可申と屋敷門を偽り相

通り同人長屋へ罷越彼是聲高二申罷在候段酒狂とハ乍申不届ニ付江戸拂申付候例ニ見合
江戸拂

街之類

享和三亥年十二月廿四日入牢
文化元子年四月四日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

當時無宿

辦 藏

右之者儀人立場ニて往來人之鼻紙袋又ハ腰錢袂錢拔取其上文二郎平左衛門申合本所北松
代町邊ニて風呂敷を脊負候出家を見掛ケ所持之品可欺取と道連(ニ)成小網町蕎麥屋へ立寄
平左衛門儀は切疵之妙藥所持いたし候旨を偽文次郎儀右藥買受人ニ成金子不足之由を申
右出家所持いたし候金壹兩借受風呂敷包も文次郎外登人盜取逃去此ものも品々申偽可逃
去といたし候處町内ニて被捕押候始末不届に付死罪
〔右御仕置附〕右御定書巧事街事之御仕置簡條ニかたり事之品對 公儀へ候事歟又は兼て巧

候事歟成は人を誘引申合候もの雜物金壹兩以上は死罪と有之此もの儀かたり可致と文次
郎外登人申合惠燈と道連ニ成金壹兩并衣類其外入候風呂敷包かたり取候始末右品々ハ文
次郎外登人持退候得共人を誘引申合候ものニて當座之街ニも無御座候間右御定ニて死罪

偽取拵相違申立又は申掛致し候類

寛政十二申年四月十日溜預
同年閏四月廿四日入牢
同年六月九日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿

右之もの儀先達て不届有之蔽又ハ入墨之上蔽其後入墨を消紛如元入墨之上江戸拂御仕置
ニ相成一旦御構場所立去候得とも知人共より合力請可申と御當地へ忍出松平阿波守中屋
敷中間部屋ニて金五郎外二人之者と酒狂之上及口論疵請候を心外ニ存相手之ものへ難儀

可相掛と博突之上口論いたし疵請候由無跡形儀を申掛候段不届ニ付中追放
〔右御仕置附〕右江戸拂御仕置ニ相成御搦場所へ立入候不届は最初之御仕置より一等重く江
戸十里四方追放ニ相當り候處松平阿波守中間部屋ニて博突之上口論致し疵請候由無跡形
儀申掛致し候者ニ有之御定書ニ武家屋敷にて召仕博突いたし候者遠島と有之人殺之中掛
致候もの重追放之御定見合候得とも死刑之申掛ニハ無之遠島之申掛ニ御座候間右御定ニ
准し中追放

盜賊之部

御場所柄ニて盜致し又ハ御用之品を盜候類

寛政十二申年二月廿九日入牢
同年四月三日落着

太田備中守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿

安五郎

右之者儀當二月十五日内櫻田御門番所勝手へ罷越掃除中間吉五郎と雜談いたし同日暮時
頃立歸候砌不斗惡心出同所二重御櫓土戸錠おろし封印有之故可致盜と右錠前を石ニて敲
明ケ這入候處書物類計ニて可盜取品無之故錠ハ御堀内へ捨翌十六日右錠前損し候儀取沙
汰可承と猶又大手御門番所勝手へ罷越候始末御場所柄をも不恐仕方重々不届ニ付死罪
御差圖引廻之上獄門

〔右御仕置附〕右相當之例相見不申天明八申年山村信濃守町奉行之節伺之上申付候無宿市五
郎儀身持放埒ニて無宿ニ成當日を送り兼去未九月日不覺暮時過田安御門番所下陳物置入
口戸押外し這入錠おろし置候櫃後シ打釘を押曲蓋を明ケ内ニ有之候革羽織貳木綿看板壹
ツ盜取當正月十二日暮六半時分同様之始末ニて右物置内ニ有之候紙合羽九ツ盜取右品之
賣拂代金貳朱ト錢貳貫貳百三拾貳文不殘酒食ニ遣捨同十五日夜尙又可致盜と右御門番所
勝手戸建寄有之を明ケ這入臥り居候者之側ニ有之候木綿布子絹法被盜取候始末不届至極
ニ付死罪申付候例ニ見合格別輕重も有御座間敷哉ニ付死罪

締之厚薄度數等ニ寄御仕置輕重有之候類

寛政十一年二月十八日入牢

同年四月廿一日落着

安藤對馬守殿御差圖

根岸肥前守掛

當時無宿

甚兵衛

右之者儀身持放埒ニて店持居候節より町家貳拾ヶ所へ盜ニ入候内拾六ヶ所ハ掟り無之貳ヶ所ハ開戸輪掛鐵ニて掟り有之又ハ土藏入口之戸さるおろし有之所固辭明ヶ所ハ締り無之土藏内葛籠之錠固辭明ヶ物數都合貳百四拾品盜取内四拾六品ハ預ヶ置或ハ吳遣し百九拾八品ハ質入又ハ賣拂代金錢都合三拾三兩餘錢五貫九百文餘不殘酒食ニ遣捨候始末不届ニ付引廻之上死罪

〔右御仕置附〕右盜致し候場所貳拾ヶ所之内家藏之締りを固辭明ヶ候ハ貳ヶ所ニて土藏内葛籠錠前を固辭明ヶ其外手先之盜と難申ヶ所も有之一鉢數ヶ所之盜ニて事實之處へ家藏へ忍入五度以上盜いたし候もの之御定ニも引合可申哉尤右類之御仕置安藤彈正少弼御勘定奉行之節引廻し死罪と相親評定所一座ニても同様申上候處死罪と御差圖有之候儀も御座候間猶亦勘辨仕候處此もの盜之始末多分晝之儀ニて見帳無之候共戸を明ヶ或ハ藏之内等

ニ立入物敷多持出し候ハ深夜ニ家藏を破り候よりハ忍入候手段も手強く殊ニ貳三所と申ニも無之貳拾ヶ所之盜ニ有之去ル丑年盜賊之儀錠前眞差を固辭明候而已ニ不拘一鉢盜之趣意を以御仕置附可仕旨采女正殿被仰渡候儀も御座候間五度以上盜致候もの之御定ニ准シ引廻之上死罪

戸明盜之類

寛政十一未年十二月十二日入牢

寛政十二申年五月廿九日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

當時無宿

清助

右之者儀當月十一日曉又三郎居室入口大戸潜ハ締り有之ニ付大戸を強ク押候得ハ上ヶ戸ニて締無之ニ付押上ヶ遣入締り無之棚内ニ錠おろし有之錢箱之蓋へ足を踏懸ヶ錢入候穴へ手を懸け引放シ眞鍮錢取交拾貫三百文程并同所ニ有之木綿衣類拾貳品盜取大戸潜戸之

懸鐵をはつし右品持出し逃去內衣類三品ハ着用致シ九品ハ賣拂候積リニて新兵衛へ渡置
 錢拾貫三百文之内六貫六百文餘ハ南鐮銀八片ニ兩替いたし右之内南鐮銀四片錢五拾文餘
 ハ所持いたし殘銀錢不殘酒食(ニ)遺捨候始末不届ニ付死罪
 御差圖入墨之上重敲
 (右御仕置附)右安永三年安藤彈正少弼御勘定奉行之節手限竊之上御仕置申付候無宿原苗儀
 百姓家裏口之戸建寄有之候間明ケ這入錢箱之錠前を鑿ニて固辭明け錢七百六拾文其外木
 綿布子壹盜取候段不届ニ付存命(ニ)候ハ、入墨之上重敲可申付旨被仰渡候例有之此もの儀
 ハ盜可致と潜戸へ手を掛け候處締り有之候ニ付大戸を強く押候處上戸ニて締り無之ニ付
 押上ケ這入品々持出し候節右締り有之潜戸を明ケ候趣等一躰之始末例より品不宜候間家
 藏へ忍入之御定へ見合死罪

途中盜之類

享和元酉年六月十八日入半
 同年十一月六日落着

安藤對馬守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿

清 次

右之者儀無宿ニ成小遣錢差支候迎兩國橋邊人立場ニて往來人之鬨亂を切取又ハ腰錢袂錢
 抜取猶亦無宿喜三郎申旨ニ同意いたし無宿源藏外三人一同申合新よし原町其外ニて往來
 人へ突當爲驚或ハ口論仕掛其紛ニ壤中又ハ腰ニ挟居候單羽織員數不覺奪取逃去候節被見
 咎候得ハ品々同類ニ渡盜致し候覺無之旨ニて却て彼是難澁を申打擲等いたし其紛ニ逃去
 且右羽織之内貳ツ配分取遊女紅梅を頼質入致都合金三分錢貳貫貳百文程不殘酒食ニ遺捨
 候始末不届ニ付死罪

(右御仕置附)右於途中腰錢袂錢抜取候と違ひ發頭之者ニハ無之候得共同類申合往來人へ突
 當り又ハ口論を仕掛ケ打擲等致し右紛ニ盜取逃去候者ニ付追落致シ候もの死罪之御定ニ
 て死罪

預リ置候品質入致し候者

寛政十一年末五月廿六日入牢
同八月六日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

當時無宿
孫七事

彌

七

右之者儀當正月廿九日八町堀水谷町より出火之節懇合彌市方へ見舞ニ参り候節衣類其外入候脊負葛籠并傘一本持退吳候様相頼故請取翌朔日相返可申と持参り候處彌市儀類燒致し居所不相知候ニ付持返り猶又同月四日罷越近邊承合候得共不相知然處此者儀定り候宿も無之永々預り置候儀迷惑ニ存折節小遣錢ニも差支幸ひ錠前も無之間右衣類其外取出し追て彌市居所相知候ハ、代金ニて成共可相濟存候由申之候得共右申口は難立右衣類其外質入又ハ賣拂代金不殘酒食雜用ニ遣捨候始末不届ニ付江戸拂

〔右御仕置附〕右相當之例相見不申天明五辰年山村信濃守町奉行勤役之節伺之上申付候市谷長延寺谷町佐兵衛店善五郎儀清水家老吉川勘津守家來淺木和太夫より掛籠ニ遣候品小遣錢ニ差支候迎同人へ掛合も不致其上置主御留守居石川阿波守同心拓植幸助へも無沙汰ニ

致し質入いたし候段不届ニ付所拂申付候例ニ見合此者儀は質入計ニ無之賣拂候儀も有之右例より品不宜其上當時無宿之儀ニも御座候間江戸拂

口論打擲疵付之部

人殺之類

寛政十年十一月晦日入牢
寛政十一年四月十一日落着

安藤對馬守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿

專

次

右之者儀先達て盜又は致博奕候依科重敲ニ成候後も所々野田等ニて數度廻り筒賽博奕いたし或は不取留儀を遺恨ニ存五年以前卯年上州濱田村地藏院ニ次郎吉宇兵衛富七罷在候旨及承可打果旨藤兵衛文次其外申合紙眞綿等手拭ニ包鉢卷ニ致し脇差を帶及狼籍居合候者共へ手疵爲負其上同國小林村境ニて富七ニ出合同人へも手疵爲負候始末旁不届ニ件遠

島

〔右御仕置附〕右相當之例相見へ不申候得共先達て重敲御仕置ニ相成候以後も數度博突いたし金錢貸借等之儀ニ付遺恨を含子分兄弟分杯と唱候者共申合此もの儀も頭候て度々及狼籍居合候もの共へ手疵爲負候始末前書荷擔人之御定へは難引當候間前書次郎吉より軽く遠島

疵請候者之類

享和二戌年七月晦日入牢
同年八月廿七日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

佐久間町四丁目善次郎店
三郎兵衛受ニ立町方ニ
奉公いたし候

當時無宿

吉兵衛

右之者儀清次召仕鐵五郎と先達て及口論候處段人立入事濟候後右清次家前通り候節鐵五郎見世ニ居候を見請酒狂之紛右口論之儀を存出心外ニ成往還より鐵五郎へ對し及惡口候得共同人不差構候迎再應及惡口候故疵受候始末ニ相成其上被追驅候迎武家屋敷へ驅込候儀共不埒ニ付三十日手鎖

但此者當時無宿之儀ニは候得共元請人三郎兵衛引取之儀相願候間同人へ引渡遣御答中は願置候様可仕候

〔右御答附〕右去ル辰年私御勘定奉行之節伺之上申付候武州大里郡小八ツ林村小文次儀村内酒屋ニて同村又兵衛と酒給合候節鳥目貸借之儀より事起り及口論候共取計方も可有之處其場ニ有合候棒を以打掛候間又兵衛所持之鉈ニて手疵請候始末ニ相成其上可切殺旨又兵衛申居候風聞有之怖敷候迎一旦村方を致欠落候始末旁不埒ニ付三十日押込申付候例ニ見合此者儀は武家屋敷へ驅込候始末不宜候間三十日手鎖

一旦御仕置ニ成候後又ハ吟味中等ニ惡事致し候部

御構場所へ立入候類

寛政十一未年六月五日入牢
同八月二日落着

松平伊豆守殿御差圖

根岸肥前守掛

奥州無宿
忠吉事

入墨

松五郎

右之者儀先達て不届有之敵其後入墨又は如元入墨之上江戸拾里四方追放御仕置ニ相成候處御構場所へ立入被捕吟味之節右江戸拾里四方追放ニ相成候儀は押隠又候江戸拾里四方追放申渡佐州へ爲水替遣候處彼地を逃去御構之地へ立入候段不届ニ付輕追放申付猶又佐州へ差遣

〔右御仕置附〕右寛政十年小田切土佐守伺之上申付候無宿入墨岩次郎先達て不届有之敵又は入墨之上重敵ニ相成候處入墨を消紛候ニ付如元入墨之上江戸拂又ハ江戸拾里四方追放輕追放申付候處又候御構之地へ立入候ニ付中追放申付候上佐州へ遣候處金之助佐十郎行衛不知寅五郎申合彼地を逃去り猶又御當地知人共より合力受可申と御構之地へ立入候段

不届ニ付重追放申付候上猶又佐州へ差遣候例ニ見合輕追放申付候上猶又佐州へ差遣

御構場所へ立入博奕致し候類

享和三亥年二月晦日入牢
同年六月十一日落着

牧野備前守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿
入墨

喜太郎

右之者儀致盜候依科敵又は入墨御仕置ニ成候後入墨を消紛候故如元入墨之上江戸拂ニ相成其後御構場所へ立入又は博奕等いたし候ニ付江戸十里四方追放中追放重追放敵之上重追放ニ成候所又候入墨を消紛し當二月御當地へ忍ひ出本所長岡町捨五郎長吉宅ニて廻り筒之長半博奕いたし貸借之儀ニ付及口論名主宅へ參り博奕之儀は押隠し打擲ニ逢ひ所持錢紛失いたし候間吟味致し吳候様又ハ奉行所へ差出候様彼是不法之儀申之不立去罷在候段不届ニ付遠島

〔右御仕置附〕右博突致し其外不埒も御座候得共度々御構場所へ立入候段重モ之不届に付去
成年伺之上申付候無宿入墨市五郎儀先達て不届有之敵又は入墨其後中追放重追放御仕置
ニ相成猶又敵之上重追放御仕置ニ相成一旦御構場所立去候得共御仕置を不相用御構之地
へ立入候段不届ニ付遠島申付候例ニ見合遠島

御構場所へ立入驅込訴致し候類

文化二丑年四月十八日溜預
同年七月四日落着

青山下野守殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿坊主

政 右 衛 門

右之者儀先年博突致し候依科重敵又は中追放御仕置ニ相成御構場所立去候處濕毒ニて不
眼之上病身ニ相成剃髮致し物貫致し居候得共難給續元居村ニは身寄之者も有之間罷越養
育受申度追放御仕置後數年も相立候儀ニて殊ニ村方帳外者も歸住相願候得は御免有之趣

も及承候故御仕置ニ相成候者も同様之儀と心得歸住之儀相願候者不苦儀と御構之地へ立
入歸住之儀驅込願致し候段輕き者心得違とは乍申右始末不埒ニ付急度叱り置前之御仕置
を相守以來御構場所へ立入間敷段申渡

〔右御答付〕 右御定書ニ御構之地ニ致徘徊候者前之御仕置より一等重く可申付と有之此者
儀は全く心得違にて御構之地へ立入驅込願いたし候儀ニ付先例取調候處寛政三亥年曲淵
甲斐守御勘定奉行勤役中伺之上申付候元蓑笠之助當分御預り所當時牧野備後守領分常州
眞壁郡飯塚村元百姓新左衛門儀先年中追放ニ相成御構場所へ不立入儀とは辨罷在候處帳
外者等歸住相願候得は御免有之由御觸も有之儀を及承御仕置ニ相成候者も同様と心得歸
村之儀御免願出候儀は不苦儀と存餘人を以可相願心附も無之江戸表へ罷出候段ハ全く心
得違ニ候得共右躰心得違を以致驅込訴候段不埒ニ付急度叱り置前之御仕置を相守以來御
構場所へ立入〔間敷段申渡候例に見合御構場所へ立入〕候段は政右衛門儀も同様之儀ニ付
急度叱り置前之御仕置を相守以來御構場所へ立入間敷段申渡

御構場所へ立入あばれ候類

文化二丑年六年廿二日入牢

同年七月廿一日落着

牧野備前守殿御差圖

根岸肥前守掛

當時無宿

久次郎

右之者儀不届有之去ル午年中追放御仕置ニ相成御構場所立去相州藤澤宿旅籠屋渡世いたし居候處身上不知意ニて難取續去々亥年身上仕廻御構之場所とは乍辨御當地へ忍ヒ出御仕置ニ相成候儀は押隠し淺草寺地中三郎兵衛店を借請武州龜有村新右衛門妹りきを妻ニ貰受料理人手間稼いたし罷在候處又候身上不如意ニ成店相仕舞妻りきは離縁いたし候處同人儀音羽町與市方ニ賣女奉公致し居候趣承り罷越面會不爲致儀を憤り勝手へ踏込其邊ニ有之剃刀を以りき面部其外へ疵付候始末不届ニ付死罪

〔右御仕置附〕右御定書ニ離別之妻ニ疵付候者入墨之上遠國非人手下と有之此者儀は御構場所へ立入候不届も有之候間御構之地徘徊いたし候上〔惡事いたし候もの〕入墨以上ニ可申付惡事ニ候ハ、死罪と有之御定をも見合死罪

入墨消紛し候類

寛政十二申年五月廿五日入牢
同年九月廿五日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

無宿入墨

竹松

右之者儀先達て盜致し候依科入墨之上敲其後中追放重追放又ハ敲之上重追放御仕置ニ相成候處入墨有之候てハ人交難成候迎自分と右入墨を消紛又候御構場所へ立入候段不届ニ付入墨ハ如元入直又増入墨之上重追放御差圖如元入墨之上遠島

〔右御仕置附〕右御定書ニ入墨を抜御構之地へ立歸り候者入墨之上前々御仕置より一等重く申付一等重き御仕置々條重追放は入墨又ハ敲之上重追放と有之御定にて是迄敲之上重追放申付候者又候立入候得は入墨之上重追放と相伺來候然ル處此者儀ハ一旦入墨ニ相成候得とも盜之科ニて趣意違候入墨ニ有之御構之地へ立入候咎ハ入墨申付候てハ可然哉既ニ

前科ニ敵何ケ度有之候ても又候敵之上重追放ニ相成入墨ハ形テ相殘候故を以直ニ遠島申付候てハ前書御定之簡條一段抜候様ニも可有御座哉安永六四年入墨有之者御搆之地を不立去候ハ、先達て入墨之際へ一筋増候て入墨申付前々御仕置より一等重く可申付旨之御書付ニ准し消紛し候入墨ハ如元入直し猶又増入墨之上重追放

牢拔嶋拔者之類

文化元子年十二月廿六日入牢
翌丑年六月十八日落着

牧野備前守殿御差圖

根岸肥前守掛

淺草無宿

入墨

辰 五 郎

右之者儀先達て致盜候依科入墨敵御仕置之上佐州へ水替人足ニ差遣候處右働難儀ニ存同人足無宿吉五郎申合同所居小屋雪隠掃除口より逃去其上越後國所名不存寺院へ立寄難船ニ逢候趣申偽致止宿錢五百文貰請夫より御當地へ出知人平助方へ參江戸拂御仕置ニ相成

候ニ付在方へ立退候旨申偽金二兩貰請候始末不届ニ付敵之上猶又佐州へ差遣

〔右御仕置附〕右寛政十年小田切土佐守伺之上申付候無宿入墨佐十郎儀先達て不届有之入墨之上敵ニ相成知人源藏へ被引取候後欠落致し無宿ニ成猶又被捕惡事無之人足寄場へ遣し其後佐州へ遣候處金之助岩次郎行衛不知寅五郎申合彼地を逃去知人共より合力受在所へ參身分を可隠と御當地へ立歸罷在候段不届ニ付猶又佐州へ差遣候例ニ見合此者儀は越後國寺院へ立寄難船に逢候旨申偽致止宿錢五百文呉候ニ付貰受其上元知人永代寺門前仲町平助方へ參江戸拂御仕置ニ相成在方へ立退候旨無跡形儀を申偽金貳兩貰受候儀とは乍申右は平助儀も元懇意ニ致し候者故不便ニ存金子差遣候儀ニて御取候とも譚違候間當坐之御致し候者入墨敵之御仕置より軽く敵之上猶又佐州へ差遣

無宿之部

奉行手限

掟事并御觸申渡等を背候部

駕籠訴之類

文化元子年十月四日溜預
同年十一月十三日落着

根岸肥前守掛

當時無宿

彌

八

右之者儀願候筋有之候へ、住所を極町法之通可願出處無其儀先達而妻まぢ身分ニ付及出入候節まぢへハ離縁狀差遣以來無構旨之書付も差出まぢを千右衛門へ引渡出入内濟致し濟口證文も差出置ながらまぢを追てハ又候妻ニ可遣旨千右衛門申聞候杯無證據之儀を彼是申立千右衛門外八人相手取まぢ取戻之儀駕籠訴致し候段全心得違にて今更後悔致し候旨雖申と右始末不埒ニ付急度叱り

博奕之部

博奕打候者之類

享和元酉年十二月十二日入牢
同二戌年二月十八日落着

根岸肥前守掛

無宿

入墨

伊之助

右之者儀相州藤澤宿にて組廻り之者召捕候ニ付遂吟味候處先達て不届有之敵又ハ入墨之上重敵御仕置ニ成其後入墨を消紛し候依科如元入墨之上江戸拂御仕置ニ成御構場所立去候得共藤澤宿野田にて名住所不存もの共手合ニ加り拾錢貳拾錢賭之長半賽博奕兩度致し候段不届ニ付重敵申付之尤御構場所之儀ハ先達て申渡候通相心得御仕置相濟候上早速可立去

御仕置宥恕之部

自訴之類

安永四年九月

曲淵甲斐守掛

當時無宿

小太郎

右之者儀妻てう元數寄屋町壹町目庄兵衛店清七妻にて居候節てうと不義致し候儀ニ可有之哉之段相疑清七申立候間入牢申付遂吟味候處先達て清七留守にててう咄致し候儀も有之候故清七相疑候ニ付てう儀家出致し此もの方へ參清七へ詫致し吳候様申候ハ、其段清七へ申聞差戻可申處打捨置候其段親小兵衛承此者を強叱り候上てうを同人姉翠麻布市兵衛町幸右衛門店幸七方へ遣候處此もの儀ハ家出致し知人之方立廻り居り候内清七儀てうを離縁致し世話人も有之候ニ付其者共申旨ニ任せてうを妻ニ致候旨申候得とも一旦清七疑居候上へてうを妻ニ致す間敷處無其儀既其儀を清七承隣町徘徊致間敷旨申聞候を承知乍致清七近邊へ罷越清七咎候より及口論剩清七へ疵付逃去候段不届候得共てう儀清七妻にて居候内不儀致し候義無之段吟味之上無相違相聞清七儀も吟味之趣承疑候心底無之旨申之其上自訴致し候儀ニ候間宥免を以中追放

牢屋類焼之節放遣立歸り候類

天明六年五月

山村信濃守掛

當時無宿

國松

右之者儀武家屋敷入口戸建寄有之人不届合候ニ付戸を明這入衣類蚊屋等盜取先達て所持之品牛込中里町次兵衛店角右衛門相頼牛込天神町家主質屋庄兵衛方へ質入いたし置候に付右蚊屋と入替ニいたし殘品々々往來にて古着買へ代錢壹貫百文ニ賣拂酒食ニ遣捨候段不届ニ付入墨之上重敵可申付候得共當正月廿二日牢屋類焼之節放遣候處申渡を相守立歸候間入墨

主從親族等ニ拘り候者之部

欠落後親元へ罷越合力申掛立噪候者之類

天明八年八月

山村信濃守掛

當時無宿

長次郎

右之者元致欠落無宿ニ成難給續候迎當七月朔日金右衛門方へ參姉てつへ金子又ハ衣類貸吳候様無心中掛ケ不立去候ニ付てつ儀彌兵衛方へ連參母なつへ申聞候處致久離候忤其上

掛り人之身分故合力等難成旨申追出候得共見世先ニ臥罷在彼是難澁申殊手元ニ有之庖丁
を持髷高ニ立噪不立去候始末不届ニ付急度叱

巧事取拵之部

重キ申掛ケ致し候類

天明三卯年七月

曲淵甲斐守掛

無宿

忠兵衛

右之者儀淺草福井町一丁目源助店平吉妻そでへ先達て金子無心申候處貸吳不申儀を遺恨
ニ存迷惑可爲致と夜中平吉方へ理不盡ニ踏込そでと密通致し候上妻ニ可相成旨申候處約
束異變致し候旨跡形も無之儀申掛致し首を取候様彼是難澁申不立去罷在候段不届ニ付江
戸拾里四方追放

似七役之類

寛政十二申年十一月

小田切土佐守掛

當時無宿
坊主

玄鶴

右之者儀當時行衛不知無宿芝鐵と行逢候節十手捕繩を預り候處不能越故不斗存付役人躰
ニ致成候ハ、無錢にて食事可相成と存頭巾を冠右十手を差捕繩を持芝壽命院上ケ屋敷三
右衛門店甚七方へ罷越當組忍廻鈴木勝五郎と跡形も無之名前を名乗居合候者共面躰見改
候始末不届ニ付中追放

ねたりゆすり之類

寛政三亥年九月

初鹿野河内守掛

當時無宿
御家人辰事

辰五郎

右之者儀身持放埒ニて兄之方致欠落定リ候宿無之知人共方立廻リ渡世之手傳致罷在候處
小遣錢ニ差支候迎當正月廿九日四郎八方へ參リ金子無心申掛候得共不取敢候ニ付迷惑い
たし候へ、存念之通可相成と同人儀賣女致商賣候儀町役人ともへ可斷旨其外不取留儀共
申罵不立去罷在鳥目四百文ねたり取遣捨候段不届ニ付敲之上江戸拂

街之類

寛政十年十二月二日入平
翌未年五月廿二日落着

根岸肥前守掛

右之者儀先達て不届有之入墨敲御仕置ニ相成候處當四月廿三日古着屋半兵衛方ニて帶調
候積りにて直段相極候處代錢不足に付知人吉五郎と申者方にて借受可相拂旨對談いたし
右半兵衛召仕千次郎ニ帶爲持吉五郎方へ參り候得共同人留守ニ付猶又知人新八方にて借
受可拂と千次郎へ申聞ながら路次を急き出候處同人儀盜賊と聲掛け候ニ付驚帶差返し候

無宿
入墨

字 八

心付も無之驅出し被追驅候始末不埒ニ候得共吉五郎新八其外一件吟味之上可街取心底に
は無之段相分候得共右致し方紛敷其上武家屋舖へ卒忽ニ驅込候儀共不届ニ付敲

押借之類

寛政四年五月

小田切土佐守掛

當時無宿

文 次 郎

右之者儀酒狂之上新吉原町江遊女買揚ニ參度相成候得共揚代無之候ニ付淺草田町邊耕地
ニ而知人ニ無之淺草田原町貳町目源七店十兵衛方ニ居候嘉兵衛江貳朱判貸吳候様申掛候
處持合無之旨申ニ付左候へ、着居候羽織ヲ貸候様申右羽織ヲ押借いたし新吉原町江持參
遊女揚代ニ預置候段不届ニ付重敲

偽取拵相違申立又ハ申掛致し候類

天明八申年九月

山村信濃守掛

當時無宿

淺次郎

四七六

右之者儀身持放埒ニ付親元致欠落無宿ニ而立廻當七月四日酒ニ給酔小石川下富坂町下水江墮手を痛メ右町内ニ臥居候處町役人出會相尋候間名住所不存往來人と口論および打擲ニ逢身骨痛歩行難成旨跡形も無之儀ヲ申立候段不埒ニ付急度叱り

盜賊之部

戸明盜之類

天明八申年十二月

山村信濃守掛

無宿

金藏

外一人

右之者共儀當八月廿一日久四郎店平兵衛宅二階窓明キ有之ニ付這入掛棹ニ掛ケ置候衣類其外物數九品盜取賣拂代金錢壹分貳朱壹貫百五拾文之内六百文餘食物ニ遣捨候段不届ニ付兩人共入墨之上重敲

手元盜之類

安永五申年九月

牧野大隅守掛

無宿

七兵衛

右之者儀船橋いなや町獵師權六方ニ罷在候處渡世薄御當地にて可相稼と存當二月五日無斷罷出定り候宿無之所々立廻同十日晝永代橋際河岸ニ繫置候日除船之内ニ人不居合候ニ付不斗惡心出船端へ寄右船之内ニ有之候郡内女小袖壹ツ盜取致所持罷在候段不届ニ付敲

途中盜之類

享和元酉年七月廿日入牢

同年八月廿二日落着

根岸肥前守掛

當時無宿

常次郎

四七七

右之者儀武州鴻巢宿市場立廻り人込合候節往來人へ突當り爲驚其紛懷中銀入候鼻紙袋又ハ錢入候財布風呂敷包候錢等拔取財布風呂敷ハ途中へ捨都合金壹分錢三百文程不殘酒食ニ遣捨候段不届ニ付蔽申付人足寄場へ差遣

不得取類

享和二戌年四月七日入牢
同年同月廿一 落着

根岸肥前守掛

當時無宿

右之者儀當四月六日酒に給酔候紛不斗惡心出元主人藤堂和泉守屋敷内勝手覺居候ニ付紛入盜可致と同日暮時頃右屋敷裏門より紛入長屋中庭入口戸締り無之ニ付立入奥向惣構内に有之番所後ニ忍熟睡致し居被捕候始末不届ニ付入墨之上重敲申付之尤御仕置相濟候上
身寄三次郎へ引渡遣ス

貨金有之候迎無沙汰ニ品持出し賣拂候者

天明三卯年七月

曲淵甲斐守掛

無宿

文 治

右之者儀根津門前町善治郎店友七方ニ被雇居候節錢并衣類等友七へ貸置候處不相返候ニ付友七留守之節同人方ニ居候半七九兵衛儀も友七へ用立候品不相返候間家財配分可致旨申ニ任七同意致し押入之内ニ有之候衣類夜具等取出四品配分受取逃去知人を頼代金貳分壹貫六百文ニ質物ニ入五百文ハ所持致し殘金貳分壹貫文餘酒食ニ遣捨候段不届ニ付右質入致し候代金殘錢所持致候分取上重敲門前拂

使先取逃之類

天明七未年五月廿七日

曲淵甲斐守掛

神田無宿

太 吉

右之者儀下谷長者町壹町目三郎兵衛店彌惣兵衛方へ目見へニ參罷在候内同人方之酒代滞

錢取集ニ參候様申付候に付先方へ參四貫文餘受取持歸候途中ニて不斗惡心出右錢取逃致し追々酒食ニ遣捨候段不届に付入墨之上敲門前拂

盜物怪敷品取扱之部

盜物と乍心付買取候類

寛政十二申年十月

小田切土佐守掛

無宿

右之者儀武州多摩郡上高井戸宿旅籠屋吉兵衛方ニ居候當時欠落十藏より賣拂之儀被頼候衣類ハ身分不相應之品にて盜物と乍心付世話料可貰請と徳用ニ泥ミ賣捌遣未禮物ハ不貰受候得共右始末不届ニ付敲之上人足寄場へ差遣ス

口論打擲疵付之部

狼籍あばれ候て町所を爲騒候類

安永四年閏十二月

牧野大隅守掛

右之者儀當八月廿日夜麻布千藏寺門前源右衛門店勘七方ニ居候金次郎一同酒ニ給酔淨土宗麻布本村町遍照寺門前罷通候處庫裏二階ニ燈火相見へ三四人咄居候様子ニ付酒狂之紛レ博奕有之候ハ、手合ニ可加旨申掛ケ鳥目ゆすり可取と存兩人共踏込あはれ候段不届之至ニ付敲候上江戸拂

一旦御仕置ニ成候後又ハ吟味中等ニ惡事致し候類

御構場所へ立入候類

文化四卯年正月十二日入宇
同年二月六日落着
根岸肥前守掛

無宿

かまの松事

松五郎

右之者儀先達而不届有之蔽之上江戸拂ニ相成御構場所立去無宿寅五郎より盗金と乍承南
銀一片貰受雜用ニ遣捨其上親病氣之由及承逢申度存候迎御仕置を不相用御構場所江立
入候段不届ニ付蔽之上江戸十里四方追放

御構場所へ立入博奕致し候類

文化四卯年十二月八日入牢
同年同月廿三日落着

小田切土佐守掛

右之者儀先達而不届有之蔽之上江戸拂其後江戸十里四方追放ニ相成候身分にて知人より
可合力受と御構場所と乍辨御當地江立入其上野田又ハ河岸ニ繋有之船にて名住所不存者
共手合ニ加り五六拾錢賭之廻筒賽博奕兩度致し候段不届ニ付輕追放

御構場所へ立入又ハ惡事致し候類

天明四辰年九月

山村信濃守掛

無宿

きり事

喜兵衛

右之者儀不届有之先達て蔽之上江戸拾里四方追放ニ相成候處御仕置を不相用御構場所へ
立入追放ニ相成候儀ハ押隠し芝車町忠兵衛店藤七方ニ暫之内差置貫其上肌薄ニて難儀い
たし候迎兄南八丁堀五町目彌兵衛店修驗宮本院方へ罷越母しゆんニ本湊町幸助店與兵衛
方ニて反物調貫右躰御構場所立廻り罷在候段不届ニ付輕追放

入墨消紛し候類

寛政十二申年七月

小田切土佐守掛

房州無宿

入墨

辰五郎

右之者儀先達て不届有之入墨敲之上人足寄場へ遣置候處同所より在方荒地起返し人足ニ御代官へ被引渡候處太儀ニ候迎草刈ニ出候節附添居候足輕之目合見合逃去剩入墨有之候てハ人交相成かたく由を以入墨之上へ雲形を彫入消紛罷在該始末不届ニ付如元入墨之上江戸拂

牢又ハ溜内掟を背候類

安永八亥年八月

牧野大隅守掛

藤澤無宿

溜内買物役

甚五郎

右之者儀無宿にて渡世難成去々酉九月以來人立場徘徊致し往來人之腰錢袂錢等度々ニ凡貳貫文餘盜取遣捨其上溜内掟も有之處相溜囚人淺草福井町壹丁目五兵衛店藤藏宿より金子取寄候間手紙認吳様千住無宿溜内貳番役入墨うなき長五郎任相頼藤藏名前之似セ手紙認遣尤右ニ付禮錢等貰受候儀無之旨申候得共右始末不届之至ニ付敲之上輕追放

穢多非人之部

老中差圖

掟事并御觸申渡等を背候部

法式背候類

文化二丑八月十二日半舍格溜預

同九月初日入牢

同十月十一日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

非人頭善七手下

堀江六軒町河岸

小屋頭

兵藏

外三人

右之者共儀非人之掟相背縮布之衣類等相用身分紛し平人共と度々出會および酒食等いた

し候始末非人之身分ニ而不届ニ付江戸拂可申付處非人之儀ニ付相當之仕置申付候様申渡
穢多頭彈左衛門江引渡遣ス

〔右御仕置附〕右寛政六寅年池田筑後守町奉行勤役中伺之上申付候非人頭善七手下谷中感應
寺地内小屋頭五郎兵衛抱非人吉五郎儀非人之儀を押隠髪を束町人躰ニ致し成度々新吉原
町江罷越遊女買揚遊候段不埒ニ付三十日手鎖可申付候得共非人之儀ニ付相當之咎申付候
様申渡穢多頭彈左衛門江引渡遣候例ニ見合此もの共儀は平人ニ紛し候段は同様ニ御座候
得共小屋頭之身分ニも有之緒布之衣類等着し常々平人と打交り候段一躰之始末右例より
ハ格別品不宜御定書ニ自分と帯刀致し罷在候町人百姓刀脇差共ニ取上輕追放と有之ニ見
合非人ニ而平人之身分ニ紛し打交酒食等致し候は町人百姓ニ而刀脇差を帶し候も同様之
趣意ニ可相當哉併刀脇差を帶し候とも違ひ候間右より一等輕ク江戸拂と可相伺處非人之
儀ニ付右相當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門江引渡遣ス

巧事并取捨之部

ねたりゆすり之類

文化元子年四月十日入牢
同年四月六日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

非人頭善七手下

淺草溜後・小屋頭

才兵衛抱非人

太 兵 衛

右之者儀上横町忠助店古着買倉次儀怪敷品買取候風聞承りをよひ小遣ひ錢ニ差支候間倉
次方江罷越合力受可申と怪敷品取捌候儀相顯候ては相濟間敷段申掛合力を乞太織嶋小袖
壹ツねたり取候段不届ニ付入墨之上敵可申付候處非人之儀ニ付相當之仕置可申付旨申渡
穢多頭彈左衛門江引渡

〔右御仕置附〕右ゆすり之始末兼而相巧候儀ニも無御座寛政五丑年池田筑後守町奉行之節伺
之上申付候當時無宿新太郎外貳人之内新太郎儀は善太郎任相頼怪敷品と乍心附切類品々
賣拂遣禮金貫請遣捨幸次郎儀は右品々善太郎盜取候段同人より承候間賣先江參金錢ゆす
り可取旨發言致新太郎安五郎も同心いたし賣先江罷越彼是六ヶ敷申掛金子ゆすり可取と

致し候始末不届ニ付三人とも入墨之上敵申付候例并當座之かたり之御定をも見合入墨之上敵と相親可申處非人之儀ニ付相當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門江引渡ス

一旦御仕置ニ成候後又ハ吟味中等ニ惡事致し候部

御搦場所へ立入候類

享和二戌年五月三日入牢
同年八月廿九日落着

戸田采女正殿御差圖

根岸肥前守掛

穢多頭彈左衛門手下

上州碓氷郡板鼻宿

非人小屋頭五兵衛

抱非人ニ而欠落致し候

留五郎事

彈左衛門入墨

安五郎

右之者儀先達而不届有之敵其後入墨又は如元入墨之上江戸拂或は中追放重追放敵之上重追放重敵之上重追放ニ可相成處非人之儀ニ付其度々相當之仕置可申付旨ニ而彈左衛門江引渡ニ成同人方ニ而相當之仕置申渡在方小屋頭江引渡遣し候處又候欠落いたし彈左衛門搦之地江立入候段不届ニ付遠島

〔右御仕置附〕右去ル寅年小田切土佐守親之上申付候越後無宿入墨十太郎儀先達而盜いたし候依科敵又は入墨ニ相成其後中追放重追放ニ相成候處入墨を消紛御搦場所江立入候ニ付如元入墨入直し敵之上重追放ニ相成候處御仕置を不相用又候御搦場所江立入候段不届ニ付遠島申付候例ニ見合遠島

穢多非人之部

奉行手帳

巧事并取捨之部

重キ申掛ケ致し候類

寛政元酉年十二月

池田筑後守掛

非人頭松右衛門手下

芝伊皿子長應寺境内小屋頭

病死七左衛門抱非人ニテ致欠落

當時非人頭善七手下

本材木町五町目河岸

小屋頭傳助方ニ居候

久左衛門

右之者儀奉公先致欠落右七左衛門抱非人ニ相成候後欠落致し穢多頭彈左衛門方ニテ咎之入墨貳筋申付候後も欠落いたし右入墨を自分と大小之文字ニ消紛東海道筋ニテ小揚を取罷在當六月廿二日御當地江立歸り右小屋頭傳助方ニ罷在同廿四日明ヶ六時過紙屑拾ひニ出候處五郎兵衛町町家前ニ肩衣品々捨有之ニ付拾ひ取可賣拂と存隱置且其砌非人頭善七手下本材木町四丁目小屋頭五郎兵衛方へ罷越五郎兵衛并同人抱非人平藏富次郎且傳助抱非人市助手合ニ而三度四錢賭之めくり博突いたし右善七手下三十間堀四町目河岸小屋頭伊三郎儀は兼而遣恨有之ニ付難儀可掛と同人方ニ而博突いたし候旨跡形も無之儀を取拵申立伊三郎江對し不輕儀申掛いたし候段不届ニ付江戸拂可申付處非人之義ニ付右ニ准し相當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門江引渡遣ス

ねたりゆすりの類

安永二巳年七月

曲淵甲斐守掛

非人頭松右衛門手下

麻布新町小屋頭

市郎左衛門抱

欠落非人

源兵衛

右之者儀先達而親之方欠落致シ町人ニ相成又は非人小屋欠落致シ米錢ゆすり取可申と無宿又五郎申合本湊町十右衛門店善兵衛見世先へ參り米を呉候敷又は善兵衛娘てうを呉れ候敷と乍申見世へ上り掛り候節善兵衛并悴卯之助押出シ候ニ付惡言等申自分と土間へ倒レ打擲ニ逢候旨申不立去候段非人之儀別而不届ニ付入墨之上重敲可申付候得共非人之儀ニ付右ニ准シ相當之咎申付候様申渡彈左衛門へ引渡遣ス

盜賊之部

締リ之厚薄度數等ニ寄御仕置輕重有之候類

明和九辰年十一月

牧野大隅守掛

非人頭善七手下
葺屋町河岸小屋頭
仁兵衛抱非人

藤助
長次郎

右之者共儀無宿ニ而難取續右仁兵衛方へ罷越相頼抱非人ニ相成雪駄直いたし候處當五月
中小網町一丁目家持彌兵衛園内物置小屋ニ有之品何ニ而も盜取賣拂代錢配分可致由申合
境葭垣を破這入候節彌兵衛召仕共ニ被見咎逃出藤助儀へ逃去長次郎は被捕候儀ニ付遂吟
味候處右之外惡事いたし候儀無之旨申候得共右躰盜を心掛這入候段不届之至ニ付入墨之
上中追放可申付候得共非人之儀ニ付右ニ准相當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門へ引
渡

手元盜之類

明和九辰年八月

牧野大隅守掛

非人頭善七手下
中横小屋頭
次郎兵衛抱非人

彌助

右之者儀去々寅四月中身上仕廻無宿ニ相成道中筋ニ而小揚渡世致候得共相頼渡世成兼同
十月上旬御當地へ出致物貰候内同月廿一日非人頭善七方へ狩込ニ相成中橋小屋頭次郎兵
衛抱非人ニ成候處當四月廿三日非人入足ニ罷出時田八郎左衛門方より當番所へ引渡し候
囚人半込築戸片町與四郎店清兵衛悴清吉細取いたし候砌雜物之内ニ有之候雪駄一足盜取
候段場所柄をも不恐仕方不届之至ニ付入墨之上誠可申付者ニ候得共非人之儀ニ付右ニ准
相當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門へ引渡

途中盜之類

天明八申年十一月

山村信濃守掛

彈左衛門入墨

右之者儀先達而度々小屋欠落致し穢多頭彈左衛門方ニ而急度叱り置其後兩度迄致欠落候
咎入墨ニ相成候處又候致欠落無宿ニ而所々徘徊致し往來人之腰錢袂錢度々凡二貫文程盜
取遣捨當九月廿一日名前不存無宿共申合本町四丁目安兵衛店次郎兵衛見世前ニ積置候紙
荷物切破り西之内紙盜取候段不届ニ付入墨之上敲可申付候得共非人之儀ニ付右ニ准シ相
當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門煩ニ付代富右衛門へ引渡遣ス

等閑又ハ龜忽之部
不念龜忽又ハ心得違之類

寛政二戊年二月

池田筑後守掛

非人頭善七手下
同人園内小屋頭
權兵衛
抱非人

文次

外一人

右之もの儀去酉十一月十六日兩國橋廣小路ニ而小屋頭傳内抱非人欠落熊吉ニ出會一所ニ
相休罷在候處大御番酒井隱岐守組拓植兵三郎家來畑政右衛門同町ニ而金子并書付類印形
等入置候鼻紙袋被拔取候處右入置候書付此者所持之紙屑籠之内ニ有之候を政右衛門見咎
抱主共江預ケ候ニ付抱主共より其段彈左衛門江申出同人より召連訴出候儀に付遂吟味候
處右之書付は小屋頭權左衛門抱非人欠落半次郎持参り紙屑籠江投込逃去候儀ニ而此もの
仕業ニ無之段無相違相聞候間無構尤非人之儀ニ付彈左衛門江引渡遣ス

申付方心付方不行届之類

寛政十二申年二月

根岸肥前守掛

非人頭善七手下

靈岸島東湊町

壹丁目河岸

小屋頭二而

欠落いたし候

金太郎

右之者儀去未八月九日夜居小屋江抱非人共其外大勢寄合御法度相背博突致候儀は留守中ニ而不存候得共平日申付方未熟故之儀既ニ右之者共被捕候上は後難之程難計存一旦欠落いたし其後致後悔立戻り候得共右始末不埒ニ付穢多頭彈左衛門方にて定法之通可申付旨申渡引渡遣

一旦御仕置ニ成候後又ハ吟味中等ニ惡事致し候部

入墨又ハ敵相成候後惡事致し候類

天明八申年八月廿七日

山村信濃守掛

房州無宿

右之もの儀先達而致盜幼年ニ付非人手下ニ相成候處小屋致欠落又候盜致し加役方へ被捕候節非人之儀押隠不申立候ニ付右依科敵御仕置ニ相成候後も盜不相止兩國橋際廣小路其外人立場致徘徊往來人之腰錢袂錢度々ニ凡四貫文程盜取酒食ニ遣捨其上吟味之節名前ヲ替非人之儀并前科押隠且當申十五歳之處十四歳と申立吟味を掠候儀共旁不届ニ付入墨可申付候得共非人之儀ニ付右ニ准シ相當之仕置申付候様申渡穢多頭彈左衛門へ引渡遣ス

平人蘇ニ成候者之類

天明元丑年八月

曲淵甲斐守掛

淺草平右衛門町

平兵衛門伴と申立候處

非人頭善三郎手下

深川一色町非人

小屋頭

權太郎抱非人

平

藏

右之もの儀伊勢參宮致候ニ付^{〔平カ〕}非人之身分ニ而旅籠屋ニ止宿可致と存自分と髪ヲ結平人ニ紛し其上被捕候節も平人之趣ニ申立候段不届ニ付手鎖申付候得共非人之儀故相當之咎可申付旨穰多彈左衛門江引渡

附錄

御褒美之部

奉行手限

消防出精致し候者

享和二年四月九日落着

根岸肥前守掛

根岸肥前守掛 御褒美之部 奉行手限 消防出精致し候者 享和二年四月九日落着 根岸肥前守掛 御褒美之部 奉行手限 消防出精致し候者 享和二年四月九日落着 根岸肥前守掛 御褒美之部 奉行手限 消防出精致し候者 享和二年四月九日落着

外十五人

右之者共儀出火場ニて消防之節口論無之様心掛他組より口論いたし掛候ても不取敢其上近來は人足共纏を焦候を伊達ニいたし候趣相聞此もの共組合にては目當之纏無之候ては人足とも引纏候印無之連相互申合近來は纏ヲ焦不申様心掛候趣相聞尤名主藤兵衛頭取善太郎儀は別て厚世話いたし候故一統之人足とも口論等無之儀を專一ニ心掛消防出精いたし候趣奇特成事ニ候間爲褒美藤兵衛へハ金三百疋善太郎へは五貫文殘頭取四人并人足一同へ二十五貫文とらせ遣ス

盜賊召捕候者

享和元酉年八月九日落着

根岸肥前守掛

新吉原角町 月行事

喜助

同町番人